

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県我孫子市

自治体名：千葉県我孫子市

担当課名：文化・スポーツ課

電話番号：04-7185-1604

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	43.15km ²
人口	131,160 人
公立中学校数	6 校
公立中学校生徒数	2,780 人
部活動数	70部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

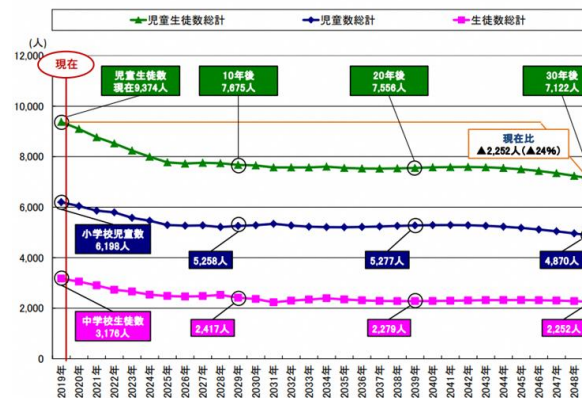
令和6年度の本市中学校生徒数は2,780人だが、令和11年度には、2,417人に減少することが予想されており、現状の部活動においても、単独でチームが組めずに合同で大会に出場するなど、すでに大きな影響が出ている。

将来にわたって部活動を維持することが困難となる中、令和6年度においては、実証的に一部の休日部活動を地域に移行し、課題等を検証した。

令和6年度に見えてきた課題としては、指導者謝金等が新たに発生することで、財政的な負担が生じ、自治体間によって格差が生じてしまう

ことが懸念される。受益者負担による運営が想定されるが、謝金単価を下げすぎると指導者を確保できない場合がある。また、施設使用においても、教員の立ち合いなしでは校舎を使用できない場合が多々あり、施設の改修検討についても、多額の費用が発生するなどハードルが高い。大会出場についても、参加要件など、改革が進まないと、完全な移行はできないことが、課題となっている。

【図表 2-2 児童生徒数の将来推計（市全体）】

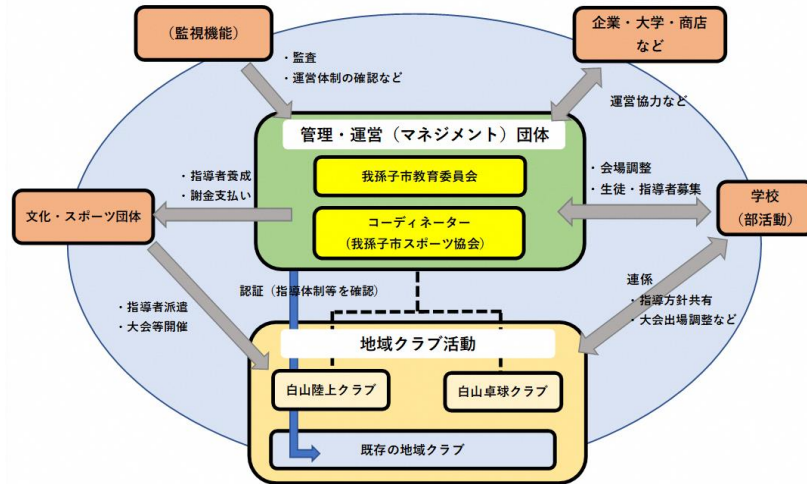


出典:我孫子市学校施設個別施設計画(令和2年3月)

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

文化・スポーツ課：全体管理、文化・スポーツ関係団体との調整
 指導課：学校・生徒・教職員との調整

◎首長部局

財政課：財源確保

年間の事業スケジュール

令和6年5月	第4回地域移行検討委員会
令和6年6月	関係者意見交換会
令和6年7月	第5回地域移行検討委員会 保護者説明会
令和6年9月	地域クラブ活動開始
令和6年10月	ブカツ未来アクション開始
令和6年11月	第6回地域移行検討委員会
令和7年2月	指導者意見交換会
令和7年3月	第7回地域移行検討委員会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	白山中学校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（3部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	0人（自治体によって運営）

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
白山地域陸上クラブ	自治体直営	陸上	月 4 回	午前中	1年 10人 2年 4人	9月～2月	白山中	2人	0人	無料	部活動
白山地域卓球クラブ	自治体直営	卓球	月 4 回	午前・午後（男女別）	1年 18人 2年 14人	9月～2月	白山中	5人	0人	無料	部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- ブカツ未来アクション（計5回開催）

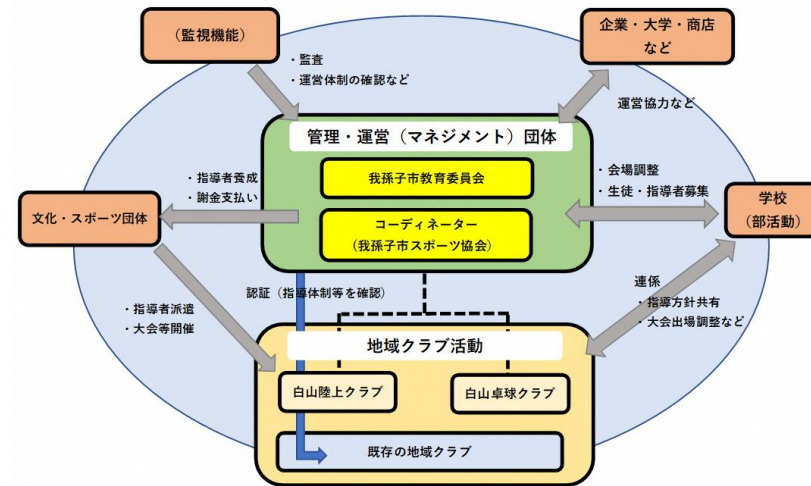
2.実証内容と成果

主な取組例

●白山地域陸上・卓球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、卓球
運営団体名	我孫子市
期間と日数	月4回
指導者の主な属性	地域指導者
活動場所	中学校
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 主任指導者 3名
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 指導者 4名
役割：生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを1名配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。

○運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

取組の成果

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○地域指導者の導入により、教員の負担が一人当たり平均96時間（9月～2月の合計）削減できた。

※あくまでも指導時間の削減であり、施設管理の関係で出勤している場合あり。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ・学校との連絡調整。
- ・関係機関との連絡調整。

今後の課題と対応方針

- 管理運営体制の構築が課題となるが、コーディネーター及び民間企業等と協力した枠組み作りを検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・市独自の研修会を実施し、質の向上に努めた。
- ・大学と連携することで学生指導者の導入を検討した。
- ・民間のデジタル技術導入検討により、指導者の質向上、負担軽減を検討した。

地域クラブ活動指導者

元部活動指導員	3名
スポーツ協会推薦	3名
教員兼職兼業	1名

種目

卓球	5名
陸上	2名

資格有無

日本スポーツ協会公認「スポーツコーチングリーダー」取得可能な講習会を開催し、資格の取得を推進した。

取組の成果

- ・市独自の研修会では、日本スポーツ協会公認「スポーツコーチングリーダー」資格の取得に加え、アンガーマネジメントや栄養に関する講習会を実施したことで、指導上必要なスキルを身に付けることができた。来年度以降、科目を充実させることができるよう検討を進める。
- ・指導者の確保においては、単発のイベントを複数回開催したが、指導者として学生に参加していただいた。将来的に、指導者の不足が懸念されているが、大学との連携により、指導者の確保が期待できることが確認できた。
- ・民間のデジタル技術を利用した指導者メニューの作成、提供により、指導者の負担減、質向上に繋がる可能性があることが確認できた。

指導者研修の内容

- ・日本スポーツ協会「スポーツコーチングリーダー」講習
- ・独自科目：アンガーマネジメント
- ・独自科目：スポーツと栄養

受講者の声

- ・生徒への接し方に不安があったが、少し自信になった。
- ・今後も定期的に参加したいと感じた。

指導者研修の参加実績

- ・開催日：12月7日・8日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：20人

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・市スポーツ協会、学校、民間企業等と連携した取り組みを行った。
- ・我孫子市部活動地域移行検討委員会を開催した。

取組の成果

- ・アスリートや専門家が考案した練習メニューを共有できる指導者向けのデジタル技術を市内に事業所を有する企業の協力により導入したことで、指導者の質向上を図ることができた。
- ・大学との連携により、クラブ活動実施時の施設使用の支援を受けることができた。
- ・市スポーツ協会の協力により、必要な指導者を確保することができた。
- ・学識経験者、中学校長、スポーツ関係団体、文化関係団体、保護者代表、公募の市民から構成される我孫子市部活動地域移行検討委員会の開催を通じて、様々な視点からの意見を取り入れながら着実に地域移行を進めることができた。

今後の課題と対応方針

来年度以降、実施内容を拡大する場合、必要な指導者を確保することに大きな課題がある。指導者の確保にはデジタル技術の活用も有効であるが、更なる費用負担が発生することから、財源の確保が課題となる。また、施設利用においては、中学校施設を使用していくことが基本となるが、全部活動の移行を見据えると活動場所の不足が予想される。公共・民間・大学施設の活用が期待されるがそれぞれの施設に利用者がいることから、安定的な活動場所の確保が課題となる。今後、関係団体との協力体制を更に深化させるとともに、民間企業、大学との更なる連携を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

市内企業等と連携したマルチスポーツ活動の展開を行った。

取組の成果

マルチスポーツのニーズ把握や、座学を通じた保護者からの期待を確認することができた。
 また、民間企業の協力による事業となったことから、今後の継続した連携についても期待できる結果となった。

今後の課題と対応方針

継続的な協力体制を築くための費用負担等が課題となる。

活動の詳細

参加人数	166 人	指導者数	10 人
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実施回ごとに異なる種目をトップアスリートを講師として実施。 ・保護者も参加できる座学（栄養、メンタルなど）を実施。 		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なスポーツに取り組むことができて良かった。 ● スポーツに必要な知識が身についた。 		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 単発で終わるのではなく、ぜひ定例化してもらいたい。 ● 大学も巻き込んだ活動は有益だと感じた。 		
運営経費	主に消耗品費 10万円程度 ※その他経費は、民間企業による支援によって開催。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

・地域クラブ活動を通じて、必要な経費の検証を行った。

地域クラブに係る経費

■ 1クラブ当たりの必要経費（令和7年1月時点で積算）※検証できた経費のみ記載

指導者謝金：約450千円

消耗品：約130千円

保険費用：約17千円

■ 今後必要となる必要経費

事務局運営費、物品借料費など

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・持続的な活動体制の構築や安全面の配慮等を考慮すると人数が少ないクラブであっても最低2人の指導者配置が必要となる。また、クラブ立ち上げに要する費用や管理団体の運営費用等、多岐にわたる費用負担が発生する。今後、アンケート調査等の結果を参考に受益者負担額を検討する。

収支バランス

・企業協賛等、新たな財源確保を検討することで、持続可能な体制づくりを推進する。

取組の成果

- ・指導者謝金、消耗品費の検証を行うことができた。
- ・企業協賛の必要性が確認できた。

今後の課題と対応方針

・検証できた科目と事務局運営費を合わせると、受益者負担では賄いきれないことが懸念される。指導者条件の見直し等を行う必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・部活動と同様に学校施設を使用して活動した。
- ・地域クラブ活動を実施するための生徒の導線等を確認した。

取組の成果

- ・学校部活動との調整を要さない種目であったことから、安定的に活動場所を確保して活動することができた。
- ・教員の出勤なしで学校施設を使用することを想定した生徒の活動場所までの導線確認を行うことができた。

今後の課題と対応方針

- ・来年度以降、実施種目を拡大した際には、種目ごとの調整が大きな課題となる。これまでは、学校内の顧問間の調整により臨機応変に対応できていたが地域クラブ活動の場合は、部活動と比べクラブごとの連携が取りにくいことから、管理・運営団体による調整が重要となる。
- ・学校によっては、施設改修にかなり高いハードルがあり、今後、活動場所の確保に苦慮することが予想される。民間施設の活用も検討しなければならない。
- ・今年度は通学している学校のみでの活動（練習試合等を除く）だったが、来年度以降は近隣の中学校や公共施設に移動して活動する場合も想定される。アンケートでは、自身が通学している中学校で活動したいという生徒がほとんどであることから、活動拠点については生徒の負担に配慮した選定が求められる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度、2クラブの活動を開始したが、指導者確保、施設使用、管理体制などに多くの課題が確認できた。また、民間企業や大学との連携も重要となってくる事が確認できたことから、継続的な協力体制を築いていけるよう検討を進めたい。

来年度以降、チーム競技にも対象を拡大するが、移動方法の検証や管理・運営方法の検討を行いたい。

●成果の評価

・地域クラブ活動への移行において、指導者の人数確保だけでなく、質の確保も重要であることを認識した。企業が持つデジタル技術の活用も有効であることが確認できたことから、スポーツ団体や企業等と連携した取り組みが必要となる。

・活動場所については、中学校施設だけでは不足することが予想されることから、公共・民間・大学施設など、様々な活動拠点を活用することで、活動の安定化を図る必要がある。

・1クラブ当たりの運営費用が予想以上に発生することが確認できた。将来的な受益者負担を考慮し、財源の確保や管理運営の効率化が今後の課題となる。

●今後に向けて

令和6年度の実証を踏まえ、更に規模の拡大を図る。事業の実施に当たっては、指導者の人数と質の確保、施設利用などの課題を踏まえた事業の推進に取り組む。

また、企業や大学、スポーツ関係団体と連携した事業展開に取り組み、持続可能な地域クラブ活動の体制整備を図る。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【ブカツ未来アクション（ラグビー）】



【ブカツ未来アクション（陸上）】



【ブカツ未来アクション（座学）】



【ブカツ未来アクション（座学）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

協議会設置、
検討開始

記載例)
受け皿団体や
指導者の選定、
拠点校の選定

令和6年

学校現場との
調整

生徒、保護者へ
の説明

令和6年

地域クラブ活動
の開始

令和7年

記載例)
地域クラブ活動
の拡大

●経過

・関係機関と協力して、検討委員会の立ち上げを行う。

●実施にあたって生じた課題

・委員の選定

●実施内容、工夫した点

・幅広い意見が反映されるよう、文化・スポーツ、学校関係者、公募委員などから組織した。

●経過

・学校現場との調整
・指導者の推薦依頼
・保護者説明会

●実施にあたって生じた課題

・部活動顧問と新たな指導者との調整に課題があった。

●実施内容、工夫した点

・複数回の協議を重ね、活動開始に備えた。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 君津市

自治体名：千葉県君津市

担当課名：学校教育課

電話番号：0439-56-1695

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	318.78 km ²
人口	79,520 人
公立中学校数	7 校
公立中学校生徒数	1,667 人
部活動数	66 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当市の運動部活動は、陸上競技部、軟式野球部、サッカー部、バスケットボール部、ソフトボール部、ソフトテニス部、バレーボール部、卓球部、バドミントン部、剣道部の10個が活動している。

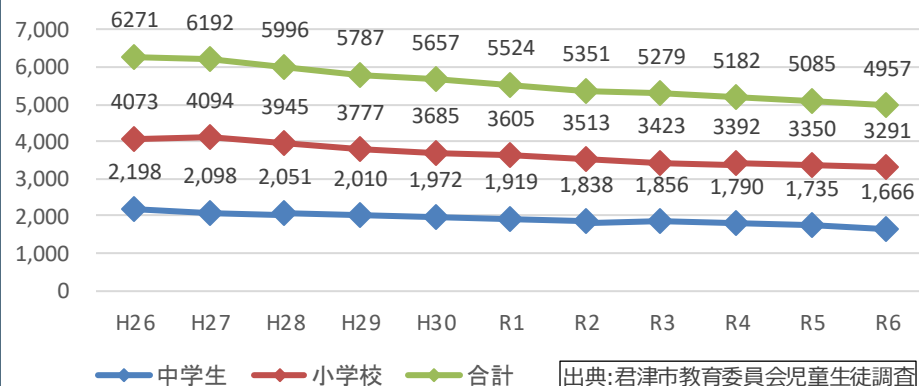
少子化に伴い、従来から多くの部活動が他の中学校と合同チームによる活動を行っている。また、多くの学校で生徒数の減少及びそれに伴う顧問数の減少により新規入部を募集を停止し部活動数を減らしている現状がある。

昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

君津市の地域移行の方向性としては、生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術活動ができる地域環境を構築することとし、将来にわたり、子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続的に親しむことができるよう、休日における持続可能な環境を整備することを目指している。

また、以前からの慣習により生徒、保護者、地域に部活動は、学校教育の一環であるという考えが根付いている。今後、地域移行に当たり部活動の在り方を関係者が認識することや、地域の指導者・運営者の掘り起こしを進めていく必要があるように考える。

君津市立学校児童生徒数の推移



【課題】

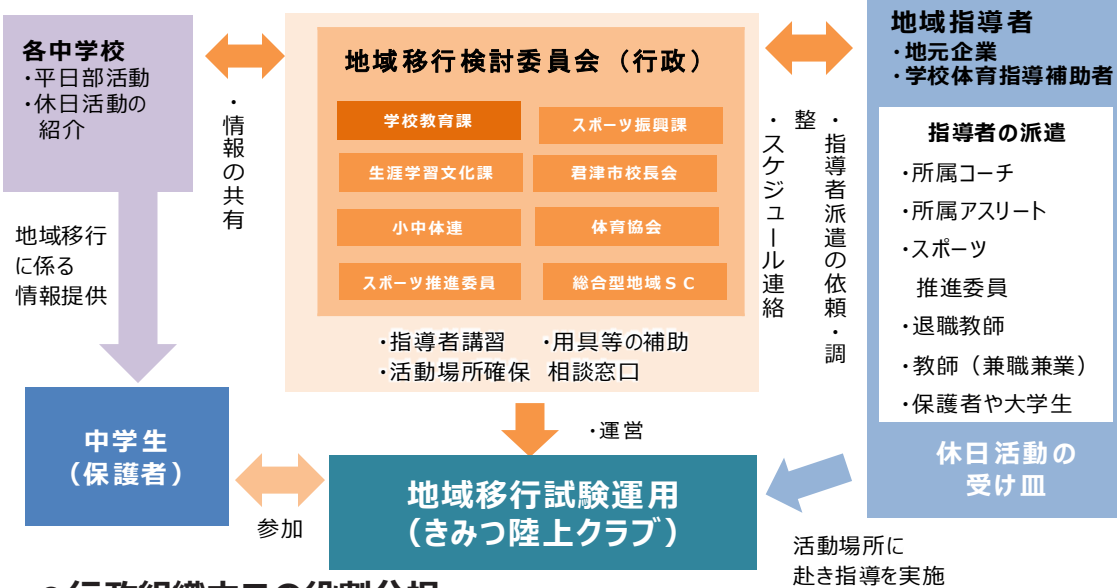
現在の君津市の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

その中で、本市で持続可能な地域展開を検討していく必要がある。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎事務局〈教育委員会 学校教育課〉

- ・地域移行検討委員会の開催（方向性の検討）
- ・地域移行試験運用事務局（企画・運営、連絡・調整等、事務全般）

◎庁内各課

- ・スポーツ推進課 …… 市内スポーツ関連団体窓口、スポーツ教室実施
- ・生涯学習文化課 …… 文化部の地域展開に関する連絡・相談
- ・財政課 …… 地域移行試験運用等に関する予算措置

年間の事業スケジュール

令和6年 6月	第4回君津市部活動の地域移行検討委員会
令和6年 7月	学校体育指導補助者講習会（試験運用指導者参加）
令和6年 9月	第5回君津市部活動の地域移行検討委員会
	地域移行試験運用（きみつ陸上クラブ）参加者募集開始
令和6年10月	第1回指導者会議
令和6年11月	第2回指導者会議
令和6年12月	地域移行試験運用（きみつ陸上クラブ）開始〈全8回〉
令和7年 2月	第6回君津市部活動の地域移行検討委員会

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動（試験運用きみつ陸上クラブ）の運営実績

①全体に関すること

中学校数	7校	実施した地域クラブ総数	1クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		0クラブ（0部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1クラブ
全体の指導者数	7人（事務局3人を含む）	全体の運営スタッフ数	7人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
きみつ陸上クラブ	君津市教育委員会	陸上競技	年間8回	午前	中学生（1, 2年）	12月～3月	市内中学校 市内運動施設	7人	7人 （内、兼務0人）	なし	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

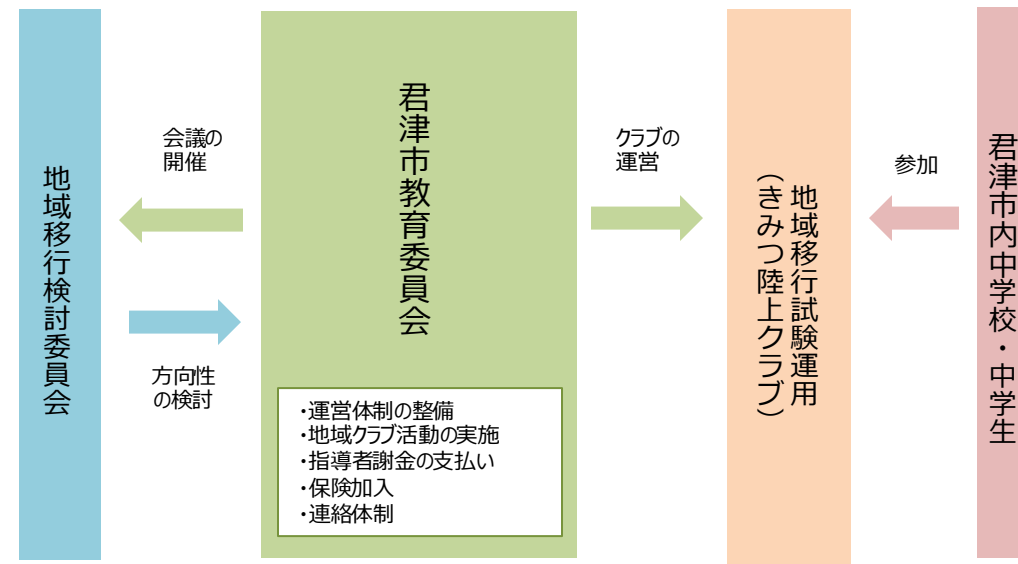
2.実証内容と成果

主な取組例

●きみつ陸上クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	君津市教育委員会学校教育課
期間と日数	全8回 ①12月1日 ②12月8日 ③12月22日 ④1月19日 ⑤1月26日 ⑥2月9日 ⑦2月23日 ⑧3月9日
指導者の主な属性	地域企業スポーツクラブ 学校体育指導補助者 県立学校教員 事務局担当者
活動場所	君津市立君津中学校 君津市立周西南中学校 内みのわ運動公園
主な移動手段	保護者送迎、自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等(年額)	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 事務局員： 3名
役割：活動における管理者として、事務全般・連携調整を行う
- 主任指導者 2名
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う
- 運営補助者 2名
役割：活動において、主任指導者の補助として、指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- イ：指導者の質の保障・量の確保
- ウ：関係団体・分野との連携強化
- エ：面的・広域的な取組

- オ：内容の充実
- カ：参加費用負担の支援等
- キ：学校施設の活用等
- ク：その他の取組



取組内容

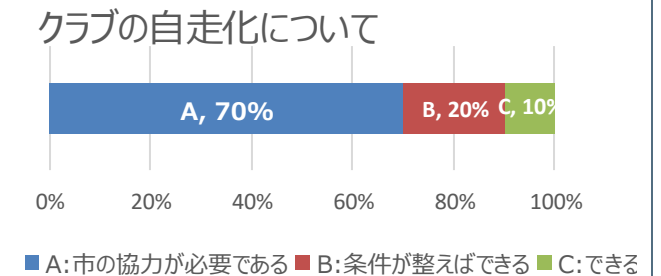
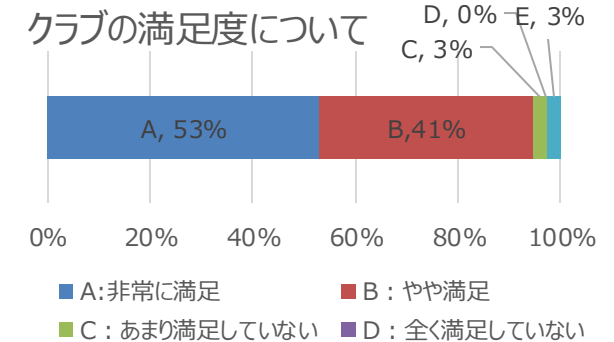
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会担当者が、関係団体の連絡・調整を行う。
- 運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の構築に向けて検討する。
- 参加者管理、参加者・指導者への連絡、会場の確保・調整、会計業務等の業務は事務局で一括して行う。
- 参加者へ連絡には教育委員会の保護者連携アプリを活用する。

取組の成果

- 参加した中学生29人を対象としたアンケートの結果、回答者の94%が「非常に満足した」もしくは「やや満足」と回答した。参加者の多様なニーズに応えた指導が行われているととらえられる。指導者と綿密な事前打ち合わせや毎回のアンケートを共有し活用している成果と考えられる。
- クラブの自走化については、自分たちだけで運営できるかを「活動場所の確保」「参加者の募集」「活動の企画・運営」「大会の参加申込み」「大会の引率」の観点からアンケート調査を行った。その結果、全体の70%の項目で「市の協力が必要である」との回答であった。指導はできるが、クラブを自分たちで運営していくことについては、大きな課題があることがわかった。今回の結果を精査し本市の部活動地域展開について、更に検討していきたいと考える。



【出典:きみつ陸上クラブ 実証事業アンケート】

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 【エリア総括コーディネーター】(南房総教育事務所)
- ・各市を巡回し課題等のヒアリング・助言等を実施
- ・各市の協議会に参加し、関係団体との連携に努めている

今後の課題と対応方針

- 実証事業を通して、現状では、教育委員会のコーディネートなしに地域展開をしていくことは、課題が多いことがわかってきた。特に指導者を担う人材も発掘していくことに難があるが、それ以上に事務的な手続き等のクラブの運営を担う人材が大きく不足している現状が垣間見えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・千葉県の人材バンク「クラサポ」から人材を探したが、本市の実証事業にマッチする人材は見つからなかった。
- ・本市で以前から行っている「体育指導補助者」から今年度の実証事業に1名の人材を登用した。
- ・体育指導補助者に対して資質向上のため、消防署と連携し、救急救命を含めた研修を実施している。

千葉県人材バンクから 実証事業の指導者に 登用された人数活用数	令和6年度 実証事業の 実施種目	指導者の 資格有無
0名	陸上競技	
体育指導補助者から 実証事業の指導者に 登用された人数	令和7年度 実証事業の 実施種目(案)	必要な資格は 特になし ※令和6年度は、事務局が 中心となり指導者の発掘を 行った。
1名	陸上競技	

指導者の役割と連携

次のような視点を大切に指導に当たっている。

○生きる力の育成（人間形成・態度づくり）

- （1）子どもにとって、人生を劇的に変える出会いとなることもある。
 - ・今回の指導が、より一生懸命スポーツへ取り組むことや自主性の育成につながり、生徒の新しい活躍の場所を見いだすこともある。
- （2）競技のエキスパートだからこそ、日常生活につながる指導を行う。
 - ・「勝利する」ことは目標であって、目的ではない。
 - ・同じ指導をしても、競技のエキスパートの指導に勝るものはない。競技を通して、日頃の生活の大切さに気付かせる。

個の目標、課題 → 全体の目標、課題



挑戦

目標を克服する喜び（達成感・充実感）



自己肯定感

生徒が社会で活躍できる体と心の育成

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【君津市立学校体育指導補助者養成講座】

- ・対象 学校体育指導補助者
- ・目的 指導についての心構えや緊急時の対応について学ぶ
- ・内容 1 理論研修（講師：学校教育課職員）

(1)成長期の体育指導と学校における運動の役割

- ①成長過程から見る小・中学生について
- ②学校体育活動における部活動について
- ③生徒数の変化と生徒を取り巻く環境について

(2)学校体育活動指導補助者の役割と連携

- ①生きる力の育成（人間形成・態度づくり）
- ②指導者の育成

(3)安全な部活動のために

- ①基本的な応急処置
- ②特に注意が必要なもの



2 救急救命講習（講師：君津市消防本部）

【きみつ陸上クラブ指導者会議】

- ・対象 地域移行試験事業「きみつ陸上クラブ」指導者
- ・目的 活動方針の共有
- ・内容 指導者及び事務局間の意見交換

受講者の声

- 子どもの指導に当たる前に、このような機会を設けていただくことで、心構えや緊急対応について学ぶことができ、有意義なものだと感じた。講習を開いていただき、とてもありがたかった。
- 今回の講習を通して、運動指導の基本的な知識や実技を学ぶことができた。特に、子どもたちへの声かけの仕方や、安全に配慮した指導方法がとても勉強になった。最初は不安だったが、実際の指導の場面を想定した講義を聴く中で少しずつ自信がつき、今後の活動に活かせる手応えをつかむことができた。
- 講習では、理論だけでなく実技の時間が設けられており、実際の現場を想定した指導方法を学ぶことができた。グループワークやディスカッションを通して、他の参加者と意見交換ができたのも良かった。今後、スポーツ教室などで補助者として関わる際にも、今回の学びを活かしていきたいと思う。

今後の課題と対応方針

今回の実証事業の指導者は、既に一定程度の指導力を有していたため、講習内容への理解が早く、大いに実践力を高めることができた。今後、どの水準まで質を求めるかについては、検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○今回の事業は、試験運用であるために、日頃の部活動とは別に実施し、部活動への影響が少ないように進めている。

○実施に当たり、市内校長会議において、本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施した。

○指導者の派遣、施設の利用、研修教材の提供・講師派遣などについては、地域のスポーツクラブや関係課で組織している「地域移行検討委員会」にて話し合いを行った。

○実証事業では活動場所までの移動手段については、現地集合としたためにスクールバスなどの運用についての検証を行っていない。

取組の実際

○全ての小・中学校について確実に内容が伝わるように、年4回実施される市の校長会議の際に、担当から地域移行の現状について報告を行った。

○学校の協力を求めることで、市内中学校の全ての生徒に事前周知や募集チラシの配付を行った。

○体育協会の会長などには、実証事業当日の様子を参観していただいている。今回は事務局までで準備や運営ができたので、スポーツ団体等の協力を得ることはなかった。

今後の課題と対応方針

課題①：地域の指導者・人材の確保
指導者不足により、地域での部活動展開が難しい。また指導者の質や指導スタイルの統一が困難であり、退職教員やスポーツ経験者、地域のスポーツクラブや企業と連携しながら展開していけると良い。この他にも指導者への報酬やサポート体制の整備に課題がある。

課題②：施設・設備の確保
学校の施設に依存しており、地域の施設活用が進んでいない。また地域のスポーツ施設の利用時間やルールがあるので、多くの競技を展開していくためには、地域の体育館や公園、民間施設と連携し、利用時間等の調整を図る必要がある。

課題③：保護者・地域住民の理解と協力
保護者の負担増加（送迎・費用など）への懸念がある。

バス等の運行実績

なし

バス等の運航経費・収入

なし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 君津市は、県内で2番目に面積の広い市であり、実施場所についても、1つの大切な観点として
- 市内に居住している生徒のみでなく、他市でも市内の学校に通学している生徒への参加も認めた。
- 今回は本市のみの実施であるが、地域の特性上、近隣市との連携も視野に活動していく必要がある。

各自治体の役割

- 君津市教育委員会
 - ・地域クラブ運営
 - ・予算管理
 - ・関係機関との連絡、調整
 - ・理解促進に向けての広報
 - ・諸謝金等の事務処理
 - ・参加者、保護者とへの連絡
- 南房総教育事務所
 - ・実証事業に対する助言

移動手段

- 現地集合、現地解散としているために事務局として確保している輸送手段はない。しかし、広域から集まるために、保護者の駐車場については、会場だけでおさまらないことを想定し確保した。
- 実際の輸送手段は次のとおりである。
 - ・保護者送迎
 - ・自転車
 - ・徒歩

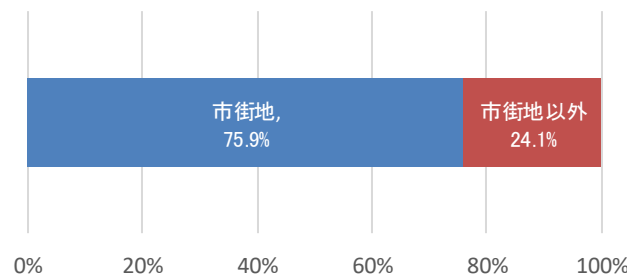
事務局運営の方法

- 君津市教育委員会に実証事業におけるクラブ事務局を設置。
- 予算については、今年度は単独市で行っているために、全て君津市の予算で拠出している。(国や県からの補助あり)
- 教育事務所エリアコーディネーターからの助言

取組の成果

- きみつ陸上クラブに参加した生徒は、市内全部で29名であったが、そのうち22名が市街地、7名がそれ以外の地域からの参加であった。
- 実証事業の中では、輸送手段を理由に欠席にすることはなく、活動場所については一定の理解を得ているととらえられる。

実証事業参加地域



今後の課題と対応方針

- 市街地以外の7名は、保護者送迎で参加をしているが、送迎に時間がかかり、活動場所については検討材料の1つである。
- 他市との連携については、今後の検討材料である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

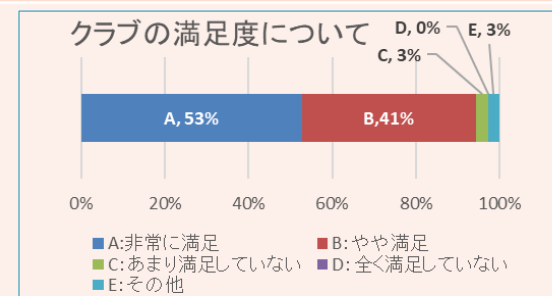
●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○陸上競技は、人間の動きの原点である「走・跳・投」を発達させる競技であり、全ての運動の基礎となる動きの1つであることから、バランスの良い体づくりのために実証事業として陸上競技に取り組んでいる。また、球技などに比べ、必要な用具をそろえやすく、対戦型の競技と比べ安全面も高いので、実証事業として相応しいととらえている。

○学校の部活動でも陸上競技部に所属し、競技力を向上させたい生徒のみならず、他の競技の部活動に所属しながらも、今回の実証事業で基礎的な体力・技能を高めたい生徒も参加している。また在籍する学校では運動部に所属していない生徒も参加するなど、裾野は広い。

活動の詳細	
参加人数	29人
指導者数	7人(含 事務局3名)
属性	陸上競技(短距離走・長距離走)
具体的な内容	陸上競技の基礎的な練習を通して、スポーツに親しむ素地を培う。 〈活動方針〉 一歩ずつ前へ 1 スポーツ・文化活動に親しむ態度を育む 2 自主的・自発的な姿勢を大切にする 3 向上心や責任感を育む 4 連帯感を味わえるように活動する
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> ● トレーニングをする事によってどんな効果があるのかも説明してくれたので非常に良かった。 ● 乳酸のたまる走り方などが分かった。 ● 自分の気にしたフォームや、足のつき方、ストレッチを教えてください自分の欲しい練習ができた ● アドバイスに関して、物足りなさを感じた。
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分自身が想定していた以上に生徒たちが素直で、とてもやりやすかった。 ● 子どもたちを預かることについて、事故が起きた際などの対応などのバックアップがほしい。 ● 夏季は熱中症の危険もあり予算が限られている中で安全対策もするのは困難。 ● 指導以外の事務方が不足している。
運営経費	〈保険料〉 36,194円 〈消耗品費〉 68,769円 〈謝金〉 196,800円 〔合計〕 301,763円



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

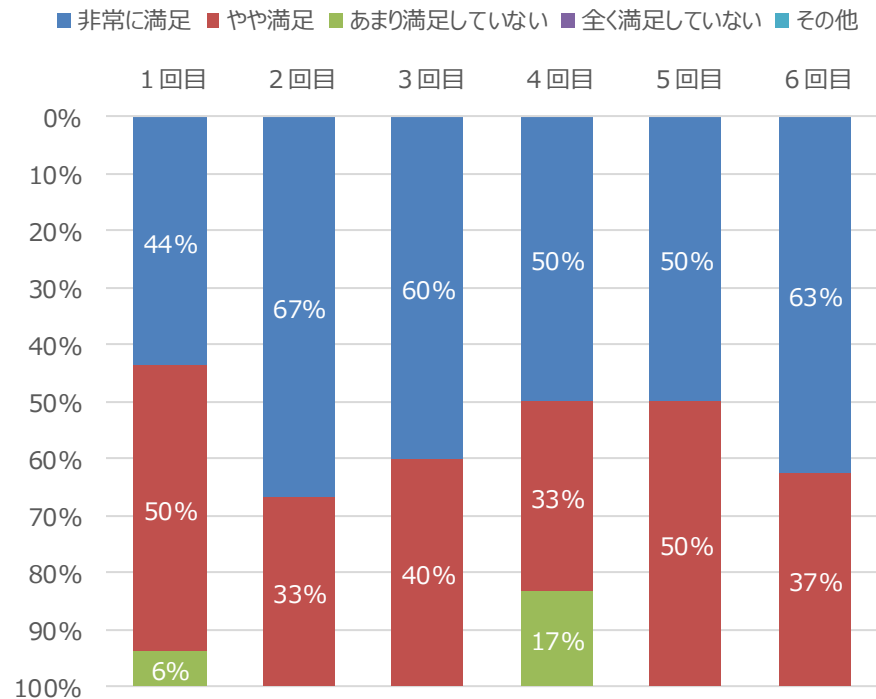
取組の成果

- 参加した中学生を対象としたアンケートの結果、これまで行った全6回の結果を見ると、毎回「非常に満足」「満足」の上位2つの回答で、ほとんどの回答が占められている。満足度は毎回80%以上である。
- 「あまり満足していない」と回答した参加者は、1回目と3回目に1名ずついたが、競技レベルの高い参加者のニーズに応えきれなかったものと考えている。
- 「全く満足していない」という回答は、どの回にも一人もいなかった。
- 総合的に判断し、参加者の幅広いニーズに応える内容で実証事業が進められていると考えられる。

今後の課題と対応方針

- アンケートの意見の中で、「もう少し専門的なことを行いたかった。」という声が聞かれた。今回の実証事業は、初心者から熟練者まで幅広く募っているので、競技力にも差がある。指導者も少ない中で、そのような声にも、ある程度は応えることができているとアンケート結果から読み取れる。
- 更に幅広いニーズに高いレベルで対応していくためには、指導者の増員が必要となってくるが、現時点で、これ以上の指導者の開拓は難しい状況がある。

きみつ陸上クラブ（実証事業）満足度



	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
非常に満足	7	6	3	3	2	5
やや満足	8	3	2	2	2	3
あまり満足していない	1	0	0	1	0	0
全く満足していない	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、実証事業における収支構造の可視化を行い、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

- ・システム整備に係る費用（0円）
- ・ホームページ構築費用（0円）
- ・事務用品（0円）

※今回の実証事業では、事務局を市の教育委員会に置いたため、保護者連携アプリなど既存のシステム等を用いて実証事業を行うことができたため、経費はかからなかった。

■ランニングコストの分析

- ・会場借料（0円）
- ・指導者謝金（196,800円）
- ・保険料（36,150円）
- ・事務局人件費（0円）
- ・消耗品費（68,769円）
- ・システム手数料（44円）
- ・連絡アプリ使用料（0円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- 今回の実証事業（クラブ運営）における年間の支出額、301,763円
- 第6回実証事業保護者アンケートの結果より 保護者の費用負担希望額は平均月額1,389円
※ カ：参加費用負担の支援等②（次のスライド）参照
- 今回の実証事業は4か月間行っている。

上記3点より、参加者が全額負担するには、55人参加をすれば収支が取れることとなる。

➡ **現体制では、55人を同時に指導することは困難である。**

収支バランス

令和6年度実証事業の収支
※ カ：参加費用負担の支援等③（別スライド）参照

〈収入〉301,763円

- 全額公費負担 301,763円

〈支出〉301,763円

- スポーツ活動費 265,569円
- 保険料 36,150円
- 事務局運営費 44円

※スポーツ活動費は（推進委員）の諸謝金を抜いた額で算出

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

参加した中学生の保護者を対象にアンケートをした結果、費用の負担について、初回18名、6回目16名の回答があった。地域クラブに対しての費用は月額1,000円と回答する率が最も高かった。「その他」以外で回答した額の平均は、初回が1,755円、6回目が1,389円であり、実証事業を続けていく中で、改めて冷静に判断すると、クラブ活動に大きな費用はかけられないということが実感できたのではないかと考察できる。

今後の課題と対応方針

○参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた時に実施が難しい状況が見えた。受益者負担を求めたうえで、更に補助がなければ運営できないことが伺えた。

その他（初回）の意見

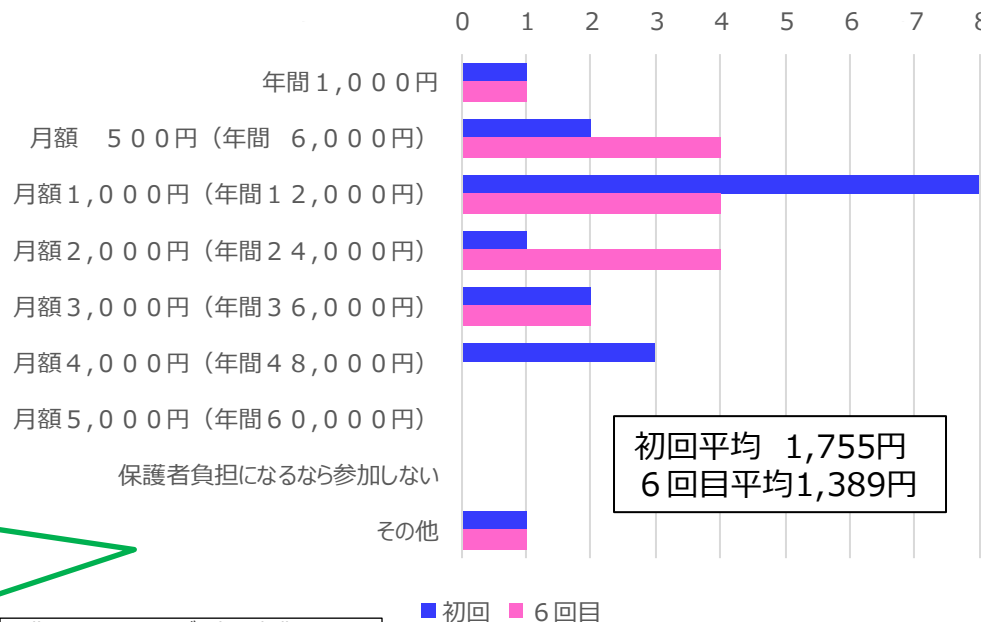
この指導内容については費用を負担する価値があると思っていますが、費用を負担できないご家庭のお子さんが参加できなくなってしまう可能性を考えると、一概にお答えできません。

その他（6回目）の意見

内容次第での判断になります。月額料金を支払うには月に2回、3時間は少ないと感じます。

地域クラブの費用はどの程度が望ましいと思いますか？

	初回	6回目
年間1,000円	1	1
月額500円（年間6,000円）	2	4
月額1,000円（年間12,000円）	8	4
月額2,000円（年間24,000円）	1	4
月額3,000円（年間36,000円）	2	2
月額4,000円（年間48,000円）	3	0
月額5,000円（年間60,000円）	0	0
保護者負担になるなら参加しない	0	0
その他	1	1



出典:まみつ陸上クラブ 実証事業アンケート

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

資料

項目	費用	割合
スポーツ活動費	379,569	91.29%
諸謝金	310,800	
諸謝金（指導者）	196,800	
諸謝金（推進委員）	114,000	
会場使用料	0	
消耗品費	68,769	
印刷製本費	0	
交通費	0	
雑役務	0	
スポーツ活動費（保険料）	36,150	8.69%
生徒	23,200	
指導員	12,950	
事務局運営費	44	0.01%
人件費	0	
通信運搬費	0	
振込手数料	0	
一般管理費	0	
消費税相当額	0	
システム手数料	44	
合計	415,763	

⇒公費負担

⇒公費負担

⇒公費負担

今年度、本市で行っている実証事業（きみつ陸上クラブ）は、受益者負担は求めず、全て公費で行っている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

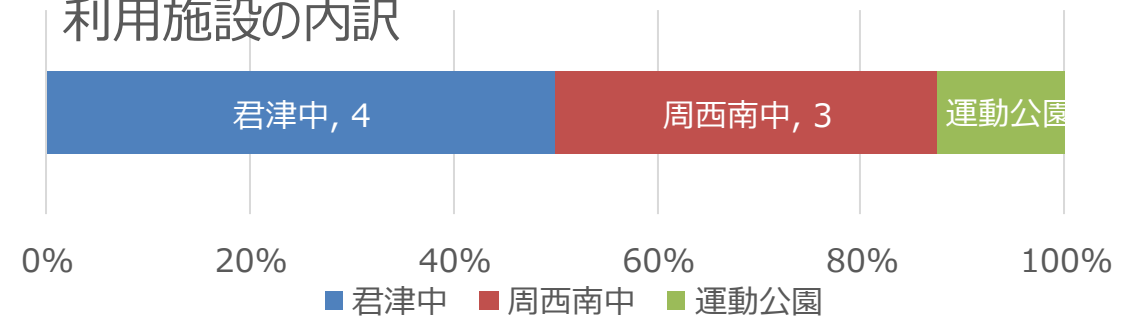
- 今後、県や国からの補助が縮小していくことも見込まれるため、受益者負担などについては、十分検討していかなければならない。
- 施設については、今年度は教育委員会に事務局を置いているために、比較的利用しやすい学校体育施設を中心に実証事業の活動を実施するよう調整を行なった。

- 学校以外での活動について、どのようなハレーションがおきるかを検討するために、市の運動施設での活動をあえて導入した。
- 今年度の活動場所については、実証事業初年度であるために、多くの参加が見込め、事務局も動きやすい市街地を中心に行っている。
〈令和6年度活動場所〉
君津中学校、周西南中学校、内みのわ運動公園

取組の成果

- 実施場所となる2つの中学校（君津中学校、周西南中学校）を訪問し、管理職や体育主任と綿密に打ち合わせを行い、理解を高めると共に学校との繋がりを深めた。
- 全8回の活動において、約88%は、学校体育施設を利用した活動となった。

利用施設の内訳



今後の課題と対応方針

- 実証事業の活動日を、学校の部活動の実施率の低い日曜に固定したことにより、比較的参加しやすい環境をつくることができたように感じる。
- 引き続き、部活動と実証事業の活動が競合しないよう、調整を図ってきたい。

- 予備日の扱いについては、前の週の活動の有無によって、かわってくるので、学校にとっては直前まで定まらず、計画を立てにくかった状況が生まれた。
- 今後、部活動の地域展開に伴い、地域クラブ活動の拠点となる体育施設の利用については、更に検討を重ねていかなければならない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

実証事業について

実証事業については、生徒・保護者のニーズ、指導者や事務局の人員確保、費用、送迎などについてのデータを総合的に検証するために行っている。現行で行われている部活動のシステムを変え、大々的に地域移行を進めることは、今後の見通しが不明な現時点では大きなリスクを伴うので、実施に当たってはスモールステップで慎重に行っている。

平日の展開についての課題

(1) 指導者の確保が困難

- ・平日日中や夕方に指導できる人材に限られる（会社員や他の仕事を持つ人が多い）。
- ・専門指導者を確保するための報酬や契約形態の整備が必要。

(2) 活動場所の確保が課題

- ・学校施設を使用する場合、管理責任や安全対策の問題が発生。
- ・地域のスポーツ施設や文化施設の予約競争が激しくなる可能性がある。

(3) 生徒の移動負担

- ・学校外の施設で活動する場合、移動時間や交通費の負担が増加。
- ・学校が遠い生徒にとっては、帰宅が遅くなるリスクがある。

(4) 活動時間の制約

- ・指導者や施設の都合により、活動時間が短縮される可能性がある。
- ・授業終了後すぐに活動を開始する必要があり、休憩時間が十分に取れない場合も想定される。

(5) 保護者負担の増加

- ・送迎の必要性が生じる場合があり、保護者の負担が増える。
- ・地域クラブの運営費が上がり、参加費の増加につながる可能性。

まとめ

メリットとしては、生徒の負担軽減、指導の専門性向上、地域との連携強化が期待できる。一方で、デメリットとしては、指導者や施設の確保、生徒の移動負担、活動時間の制約が課題となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

1. 人材不足への対応策

- (1) 指導者の確保
 - ・退職した教員や地域の競技経験者を活用する仕組みの構築
 - ・大学のスポーツ系学部と連携し、学生に実習の場として提供
 - ・指導者向けの研修制度を整備し、資格取得支援を強化
 - ・地元企業との連携強化
- (2) 待遇の改善
 - ・クラウドファンディングやスポンサー制度を活用して報酬の安定化
 - ・指導者の兼業を認める形で収入源を確保
- (3) 継続性の確保
 - ・地域のスポーツ団体と連携し、指導者の継続的な配置を図る
 - ・ICTを活用した指導マニュアルの整備

2. 資金不足への対応策

- (1) 多様な財源の確保
 - ・自治体の助成金の拡充、企業スポンサーの誘致
 - ・地域住民やOB・OGの寄付を促進
 - ・クラウドファンディングの活用
- (2) 家庭負担の軽減
 - ・適正な財務管理を行い受益者への負担を軽減
 - ・施設使用料の減免措置を自治体と協議
- (3) 運営コストの削減
 - ・学校施設の活用を促進し、使用料負担を軽減
 - ・備品の共同利用やリユース制度の導入

3. 今後の展望

- (1) 持続可能な地域クラブモデルの確立
 - ・他地域の成功事例を参考に、地域ごとに最適な運営モデルを構築
 - ・行政・企業・学校・地域住民が連携する体制を整備
- (2) 財政支援の強化
 - ・公費と受益者負担について、バランスのとれた収支の検討
 - ・地域経済と結びついた仕組み（地元企業とのコラボなど）を構築

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

部活動の地域移行に関する実証事業の総括として、特に「人材不足」と「資金不足」が大きな課題となっている。

1. 人材不足の課題

- ・指導者の確保が困難（特に専門性の高い競技）
- ・指導者の報酬や待遇について、安定して保証する必要があり、持続可能な運営が難しい
- ・学校教員が関与しないことで、指導の継続性が失われる懸念がある
- ・指導者のみならず、事務局の役割を担う人材は、極めて不足している

2. 資金不足の課題

- ・公的補助金だけでは運営が厳しい
- ・参加費の負担が増え、家庭間の格差が拡大する可能性
- ・施設使用料や備品購入費の捻出が困難
- ・市の面積が広く、遠くから活動場所まで移動することが必要（公共交通機関も少ない）

●成果の評価

運営モデルの確立や指導者育成の仕組みづくりが課題である。運動部活動の地域移行に関する実証事業では、生徒の満足度が高い一方で、持続的な運営に向けた課題が浮き彫りになっている。

地域企業との連携や新たな指導者の活用により、質の高い指導が提供されている。学校の枠を超えた活動により、多様な競技者と交流できる機会が増えた。しかし、継続的な運営が困難になれば、満足度の維持が難しくなる。事務局を担う人材の確保が必要とされる。ボランティアに頼る形では持続性が低いと考えられる。

学校外の施設で活動するため、移動手段の確保が必要となる。公共交通機関が少ない地域では、アクセスの不便さが継続の障壁になっている。自治体や地域企業と連携し、送迎バスの運行支援を受けたり、保護者間での送迎シェアリングなども考えられるが難しい現状がある。

公的補助金だけでは運営が厳しく、指導者の報酬や施設利用料が賄えない。スポンサー企業の獲得を推進したいが、なかなか難しい。ふるさと納税やクラウドファンディングを活用し、地域住民からの支援を募るなど、行政との連携が打開策の1つであるが、行政からの補助金頼みの運営では先細りが懸念される。

●今後に向けて

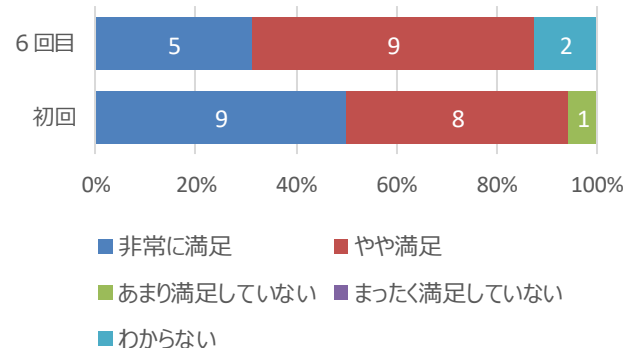
運営モデルの確立や指導者育成の仕組みづくりが課題
財政面での支援策の必要性

アンケート結果・保護者の声

●アンケート結果

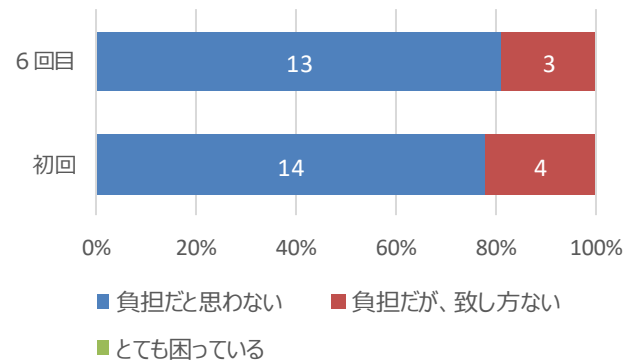
Q.お子さまを、きみつ陸上クラブに参加させてみての感想を教えてください。

	初回	6回目
非常に満足	9	5
やや満足	8	9
あまり満足していない	1	0
まったく満足していない	0	0
わからない	0	2



Q.会場までの送迎について、教えてください。

	初回	6回目
負担だと思わない	14	13
負担だが、致し方ない	4	3
とても困っている	0	0



●保護者の声

- いい刺激になっている。
- 楽しく行かせてもらってます。
- 活動回数、活動時間がちょうどいいと思った。
- 真夏を避けているので、親としては熱中症を気にせず送り出すことができる。
- 運動する機会が増えた。
- 専門的に指導してもらえた。
- 他校の生徒と交流できた。
- 部活動との日程とかさなり、参加できなかったのが残念だった。
- 本人が体調を崩し、日程は空いていたのに参加できなかった。
- 人数も適度な人数で走り方など指導していただき良かった。
- ガッツリ系とゆったり系と分けてあると嬉しい。
- 長距離と短距離両方ができるとよい。
- 貴重な体験になった。
- 学校に陸上部ではないが、アドバイスしていただいたことを今後活かしていけたらと思う。
- こういう活動をしていただき感謝している。
- 小学生にもあるといいなと思った。
- 陸上競技は全てに通じるのでベストだと思う。
- 逆に珍しいものが経験できるなら面白いと思う。例えば棒高跳びなど。

2.実証内容と成果③

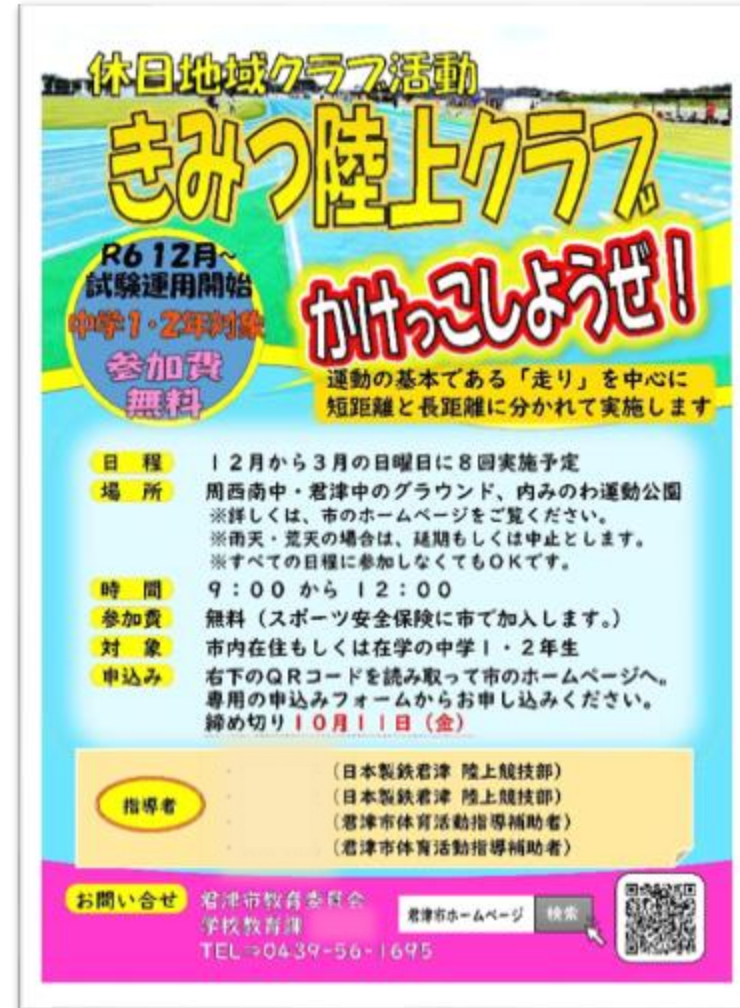
アンケート結果・広報資料

募集について

- 〈募集開始〉 令和6年 9月25日（水）
- 〈募集締め切り〉 令和6年10月11日（金）
- 〈申込方法〉 募集リーフレットのQRコードより専用の申し込みフォームに入り、必要事項を記入し申し込む。

- 君津市教育委員会の広報活動
 - ・君津市のホームページへの掲載
 - ・月刊誌「広報きみつ」への掲載
 - ・市の定例記者会見での広報
 - ・保護者連携アプリ「すぐーる」での配信
- 学校への依頼内容
 - ・教育委員会からの実証事業開始のお知らせ
 - ・手紙の配付
 - ・ポスターの掲示

※申し込みは個人対応のため、学校での取りまとめ等についての依頼は行っていない。



休日地域クラブ活動
きみつ陸上クラブ
かけこしようぜ!
R6 12月~試験運用開始
中学1・2年対象
参加費無料
運動の基本である「走り」を中心に
短距離と長距離に分かれて実施します

日程 12月から3月の日曜日に8回実施予定
場所 周西南中・君津中のグラウンド、内みのわ運動公園
※詳しくは、市のホームページをご覧ください。
※雨天・荒天の場合は、延期もしくは中止とします。
※すべての日程に参加しなくてもOKです。
時間 9:00 から 12:00
参加費 無料（スポーツ安全保険に市で加入します。）
対象 市内在住もしくは在学の中学1・2年生
申込み 右下のQRコードを読み取って市のホームページへ、
専用の申込みフォームからお申し込みください。
締め切り10月11日（金）

指導者 (日本製鉄君津 陸上競技部)
(日本製鉄君津 陸上競技部)
(君津市体育活動指導補助者)
(君津市体育活動指導補助者)

お問い合わせ 君津市教育委員会
学校教育課
TEL⇒0439-56-1695
君津市ホームページ 検索

【生徒への参加啓発チラシ】

出典：君津市教育委員会作成リーフレット

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【参加者は積極的に取り組んでいます】



【礼儀の面も含め心身の成長を促します】



【技能を支える基礎体力作りも取り入れます】



【知的理解も深め技能の向上に役立ってます】

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでのプロセス

令和5年

検討委員会設置、検討開始

方向性についての検討（受け皿や指導者の選定等）

令和6年

実証事業の方向性の決定

実施内容の決定
学校、生徒、保護者への通知

実証事業の実施、実施内容についての検証

令和7年

地域展開についての検討

経過

令和5年度より検討委員会を設置し、君津市教育委員会、首長部局、体育協会、総合型地域スポーツクラブ「レインボークラブ」、小中体連君津支部、君津市校長会を交えた地域移行検討委員会にて、活動方針の検討を開始した。検討委員会の中で、令和6年度は実証事業についての方向性や具体的な方法が検討された。



実施内容

年3回の検討委員会の中で、今回の実証事業については、部活動と並行して実施をしていくために、日曜のみの実施とした。また実施競技も運動の基本となる「走運動」であれば、全ての競技に通じる面があり、取り組みやすいものと捉え「陸上競技」とした。

地域クラブ活動へ展開する試験的な取組であり、今回の実証事業を通して、本市として、どのような展開が無理なくニーズに応えることができるのか、本事業を通して明らかにすることを目的としている。

実施にあたって生じた課題

休日のクラブ活動において、活動場所の予約や鍵の貸出に対する指導者の負担が大きいことが立証された。今回は市役所職員が事務局を務めているが、競技の指導だけでなく、対応できるが運営をする人員の確保がとても難しい状況が見えた。また指導者の発掘にも苦慮する実情があった。県の人材バンクでは適した人材が見つからず、事務局で地域の指導者を発掘し今回の実証事業に何とかこぎつけた。また、現在は国や県から活動に関する費用の補助を受けているが、市の財政だけの運営は厳しい面もある。

今後の展開

令和7年に、もう1年試験運用を実施し、地域展開に向けてのデータを収集する予定である。次年度は、今回実施した内容を踏まえ、別のアプローチも付け足し試験運用を行う方向で検討している。持続可能な地域クラブ運営とするために、保険料など受益者負担の開始を検討する予定である。保護者の理解を得るために、丁寧な説明が必要だと考えている。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

〈令和6年度〉

部活動地域移行試験運用開始

生徒にとって望ましいスポーツ・文化芸術活動ができる地域環境を構築する

〈令和7年度〉

君津市の実態に応じた部活動地域移行試験運用

〈令和8年度〉

君津市の実態に応じた部活動地域移行の在り方を継続検討する。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 四街道市

自治体名：千葉県四街道市

担当課名：文化・スポーツ課

電話番号：043-424-8926

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	34.52 km ²
人口	96,387 人
公立中学校数	5 校
公立中学校生徒数	2,458 人
部活動数	49 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	推進計画：未策定 ガイドライン：策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

公立中学校の現状としては、中学校数は5校、新興住宅街の学校と旧来の住宅街にある学校で生徒数にばらつきがみられる。生徒数の将来推計では、令和10年度までは増加傾向にあるが、それ以降は減少傾向を示し、学校ごとの状況も現状と同じである。

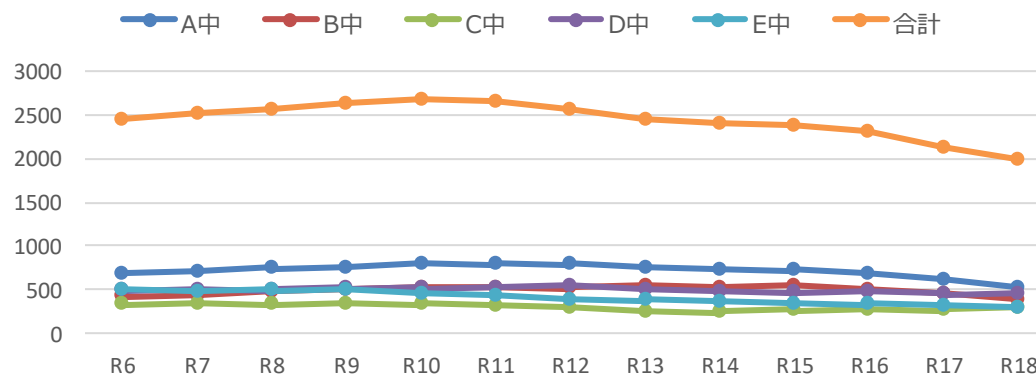
現在、生徒数が少ない学校では野球等のチーム競技において学校単独での大会参加が難しい年もあり、市内及び近隣市との合同チームを編成している。種目ごと、学校での調整により、部活動の運営を円滑に行っているが、教職員の働き方改革や少子化の観点からも対策は

早期に検討すべきである。

今後も生徒のスポーツや文化芸術活動へ親しむ機会を継続して確保していくためには、学校単位での部活動の実施だけでなく、複数校の生徒が集まる拠点型による休日部活動の運営体制の整備は求められている。また、本市は面積も広くなく交通インフラも比較的整っており、市域内での移動は簡便である。このことから、本市においては、学校単位にとらわれない拠点型の地域クラブと学校派遣型の地域クラブ、双方の運営体制を構築しなければならない。

四街道市立中学校生徒数の将来推計

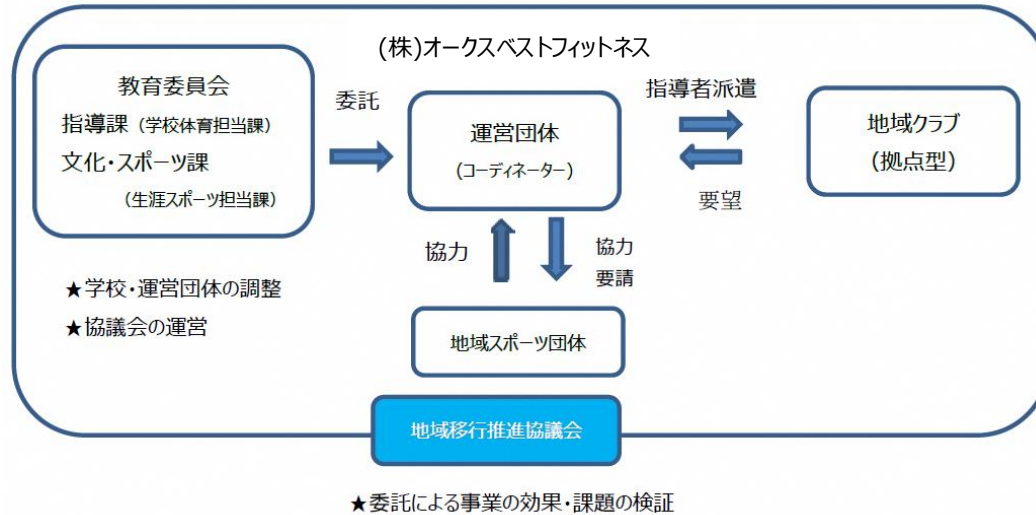
※R7以降は推計



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・指導課…学校との連絡調整、地域クラブ活動に関する教職員・児童生徒・保護者への情報提供、部活動指導員等を活用した指導者の情報提供 等
- ・文化・スポーツ課…委託業務における契約事務、地域移行推進協議会の運営、地域スポーツ団体を活用した指導者等の情報提供 等
- ・学務課…教職員の兼職兼業に関する事務手続き 等
- ・教育総務課…地域クラブ活動に関する施設改修等の検討
- ・社会教育課…公民館等の施設利用の検討

◎首長部局

- ・財政課…予算措置、財源確保に関する協力・助言

年間の事業スケジュール

令和6年4～5月	学校における地域移行説明会 （部活動保護者説明会）
令和6年6月	実証事業受託事業者公募
令和6年7～8月	実証事業に関する保護者説明会
令和6年8月	第1回協議会の開催
令和6年8月	地域クラブ参加者・指導者募集
令和6年9月	地域クラブ活動の実施
令和6年12月	保護者対象 オンラインセミナーの実施
令和6年12月	生徒対象 オンラインセミナーの実施
令和6年12月	第2回協議会の開催
令和7年1月	合同イベント 野球・ランニング教室
令和7年2月	第3回協議会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	5 校	実施した地域クラブ総数	2 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2 クラブ（5 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	7 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
四街道市地域クラブ（千代田）	民間委託	野球（新）	月 4 回程度	8:30~ 11:30	1年 28人 2年 18人	R6年9月 ~R7年2月	千代田 中学校	4人	7人 (内、兼務7人)	会費 0円	学校部活動 として参加
四街道市地域クラブ（旭）	民間委託	野球（新）	月 4 回程度	8:30~ 11:30	1年 20人 2年 10人	R6年9月 ~R7年2月	旭中 学校	3人	7人 (内、兼務7人)	会費 0円	学校部活動 として参加

③その他、体験会やイベント等の開催実績

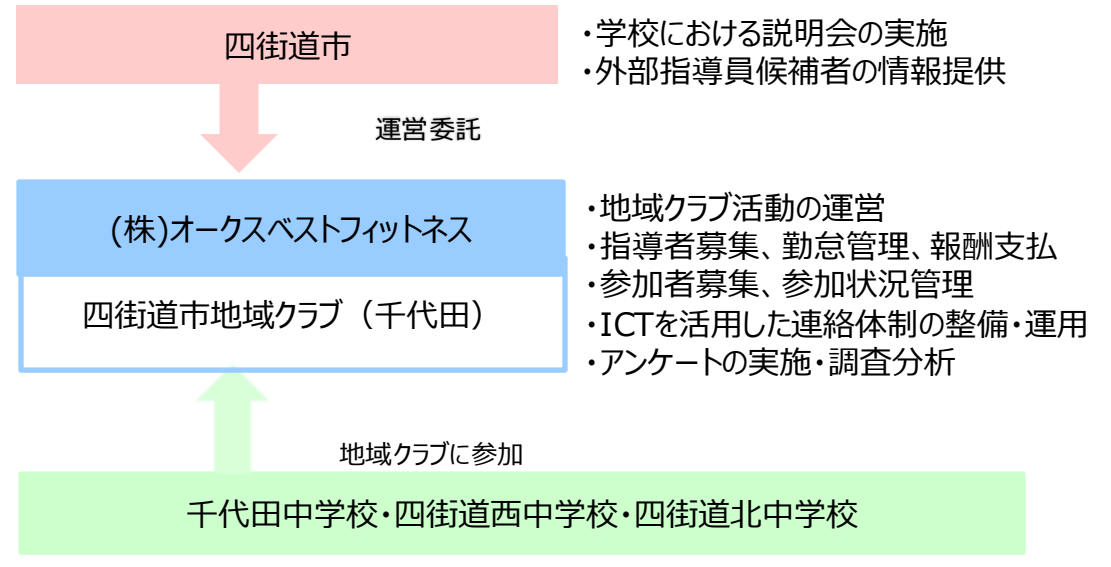
- 保護者向けオンラインセミナー「子どもの自己成長を促す関わり方」（R6年12月15日開催）
- 生徒向けオンラインセミナー「ライバルに差をつけるセルフコーチング」（R6年12月22日開催）
- 合同イベント「元プロ野球選手による野球教室」講師：清田育宏（埼玉武蔵ヒートベアーズ監督）、「走力向上教室」講師：寺田克也（インターハイ優勝経験者）
R7年1月18日開催、会場：四街道総合公園野球場

主な取組例

● 四街道地域クラブ[※]（千代田） 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	(株)オークスベストフィットネス
期間と日数	9月28日～2月22日 月4回程度
指導者の主な属性	中学校教員、部活動指導員
活動場所	四街道市立千代田中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	0円（公費負担）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

● 運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



● 指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括運営責任者（1名）
役割：活動における責任者として、教育委員会・学校等の連絡調整を行う。
 - 運営統括サポート（2名）
役割：統括運営責任者をサポートし、連絡調整を行う。
 - 指導員（2名）
役割：活動時に、生徒への指導を行う。
 - 指導管理・巡回担当（1名）
役割：活動場所を巡回し、指導者の指導・フォローを実施する。
参加者に声掛けし、意見等を収集する。
- ※指導員・参加者管理システム、労務管理従事スタッフあり（3名）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

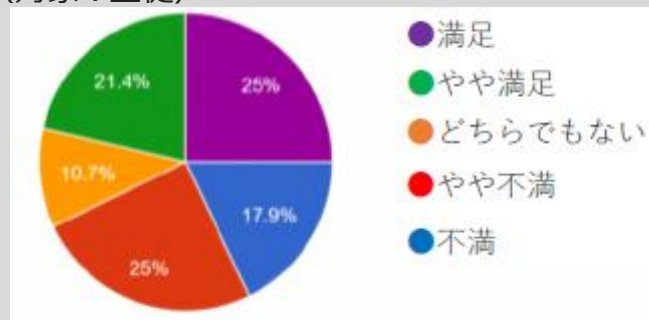
- 地域クラブの運営団体を設置し、運営を民間企業（株）オクスバス トフィットネス）に委託する。
- 連絡用アプリ等のICTを活用した運営主体により、地域クラブ活動を運営する。
- 成果と課題を抽出するため生徒・保護者・指導者へのアンケート調査を実施する。
- 成果と課題を市地域移行推進協議会で協議・検討する。

取組の成果

《アンケート調査》

参加生徒・保護者・指導者を対象としたアンケートを実施した。満足度調査（対象：生徒）では、回答者の46.4%が満足と回答した。（どちらでもないを含むと57.1%）

Q.休日地域クラブに参加した満足度を教えてください。
（対象：生徒）



《教職員の時間外労働について》

拠点型による活動により、休日の指導者数が1日あたり10名配置していたものが、5名に減少した。

このことにより、部活動顧問（兼職兼業希望なし）の休日勤務時間が、月平均で10時間減少した。

今後の課題と対応方針

- ・地域クラブ活動の拡充。令和7年度は3種目に拡充し、部活動未設置校のある競技種目での拠点型地域クラブを実施
- ・運営団体の確保・定着。地域スポーツ団体運営による地域クラブ活動、認定クラブ制度導入に関する調査研究

《ICTを活用した運営》

「Sgrum」等のICTツールを、保護者・指導者・運営団体間の連絡調整・出欠確認に活用し、効率的な運営・管理を実施した。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年9月から拠点型のモデル事業を実施した。運営主体の選定は、事業理念に共感し、先行する他市町村における実績がある民間企業をプロポーザル方式により実施した。年度当初に学校における説明会、5月～6月に業者選定、7月～8月に参加者、指導者募集と段階的に実施したことで、学校現場との意識共有が図られた。

市内すべての中学校を対象として、野球のモデル事業を実施したことにより、市域全体における野球部顧問、保護者、生徒の意識をアンケート調査等で得ることができた。

また、地域クラブ活動に移行したことにより、休日における教職員の時間外勤務も減少している。

●成果の評価

- ・地方公共団体にはない柔軟性や企画性のある民間企業を運営主体とし連携したことは、継続的な地域クラブ運営に非常に効果的である。
- ・運営主体の企画による合同イベントやオンラインセミナー等、既存の部活動にない新たな取り組みを実施できた。
- ・連絡用アプリ等のICTを活用したことにより、関係者と連絡、情報共有が即時性が高く、円滑なものになった。
- ・地域クラブに活動を移行したことにより、関係する教職員の休日の時間外勤務は減少した。
- ・アンケート調査により、保護者・生徒等の意識を把握でき、移動に関する安全性と平等性をどう保つかが課題となった。

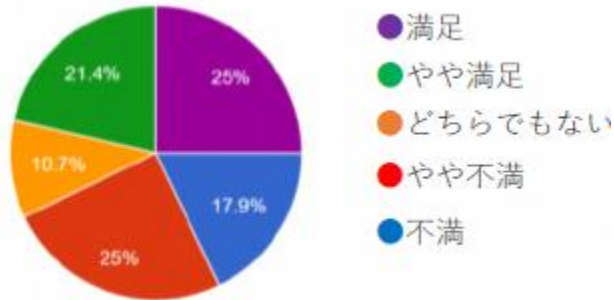
●今後に向けて

- ・外部指導者の確保（兼職兼業の教職員の割合の削減）
- ・活動場所の確保（学校施設の鍵の貸し借りのルール確立、キーボックスの設置）
- ・運営団体の確保（地域スポーツ団体との連携協力）
- ・会費制度の導入（受益者負担の金額設計、困窮者補助制度の確立）
- ・地域クラブにおける安全管理（保険及び責任の所在の確認）
- ・各種大会出場環境の整備（小中体連との情報共有）
- ・活動場所への移動に関する安全性と平等性の確保（活動場所の選定・ローテーション）

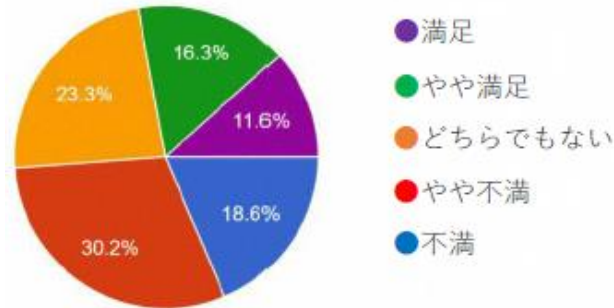
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

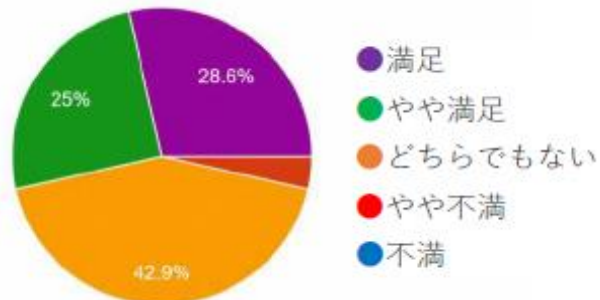
Q. (生徒対象) 休日地域クラブに参加してみたの満足度を教えてください。



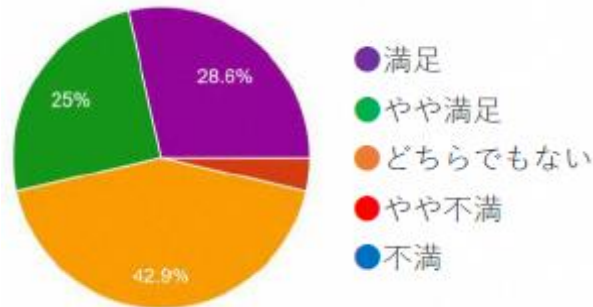
Q. (保護者対象) 休日地域クラブに参加してみたの満足度を教えてください。



Q. (生徒対象) 指導者の指導についてはいかがですか。



Q. (保護者対象) 指導者の指導についてはいかがですか。



●参加者の声

中学1年生

いろいろな人、上手い人のプレーが見れて参考になる。

中学1年生

色々な人と関われたしアドバイスなども徹底的にされ、実力の向上になった。

指導者

- ・他校との関わりで、指導の幅が広がった。
- ・もっと多方面で専門的な技能や知識を高めなければならないと感じた。

保護者 (中学2年生)

安心して通わせられる場所です。

保護者 (中学1年生)

移動が遠く、人数が多い分あまり練習できない。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【活動前ミーティング 千代田拠点】



【バッティング練習 千代田拠点】



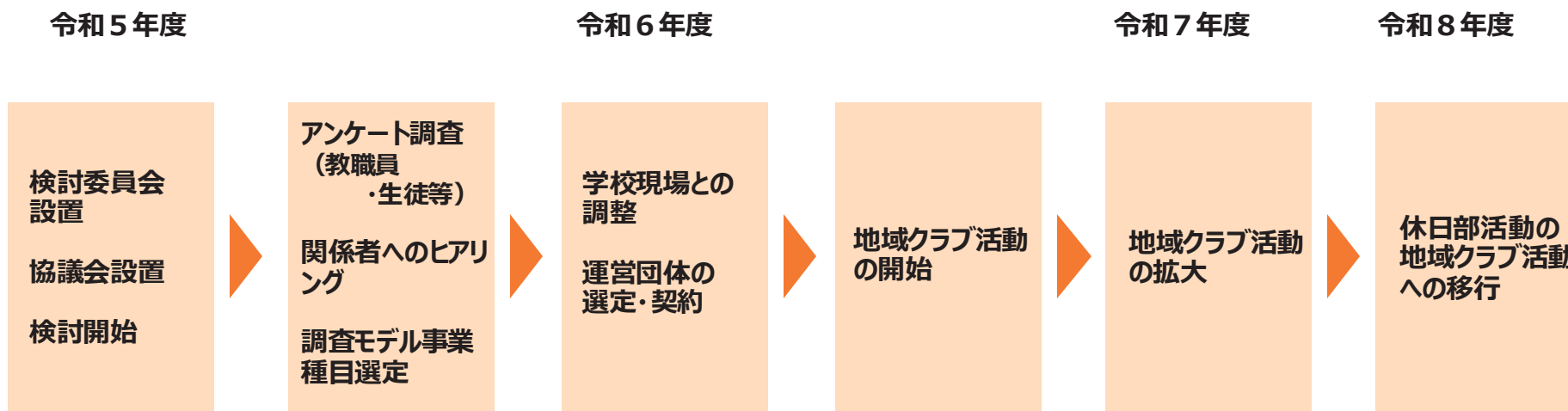
【 紅白戦 旭拠点 】



【合同イベント 走力向上教室】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー

中学校、市教育委員会、市長部局、運営団体
社会スポーツ団体（市スポーツ少年団、市スポーツ協会）

●経過

令和5年度に、教育委員会及び学校関係者によって組織される検討委員会を設置した。下半期には市民等も含めた推進協議会に移行し、休日部活動の地域クラブ化を検討する体制を整えた。また、アンケート調査等を実施し、学校部活動に対する意識と社会スポーツ団体の状況の把握した。令和6年度はガイドラインを策定し、モデル事業（野球）を9月から開始した。

●工夫したこと

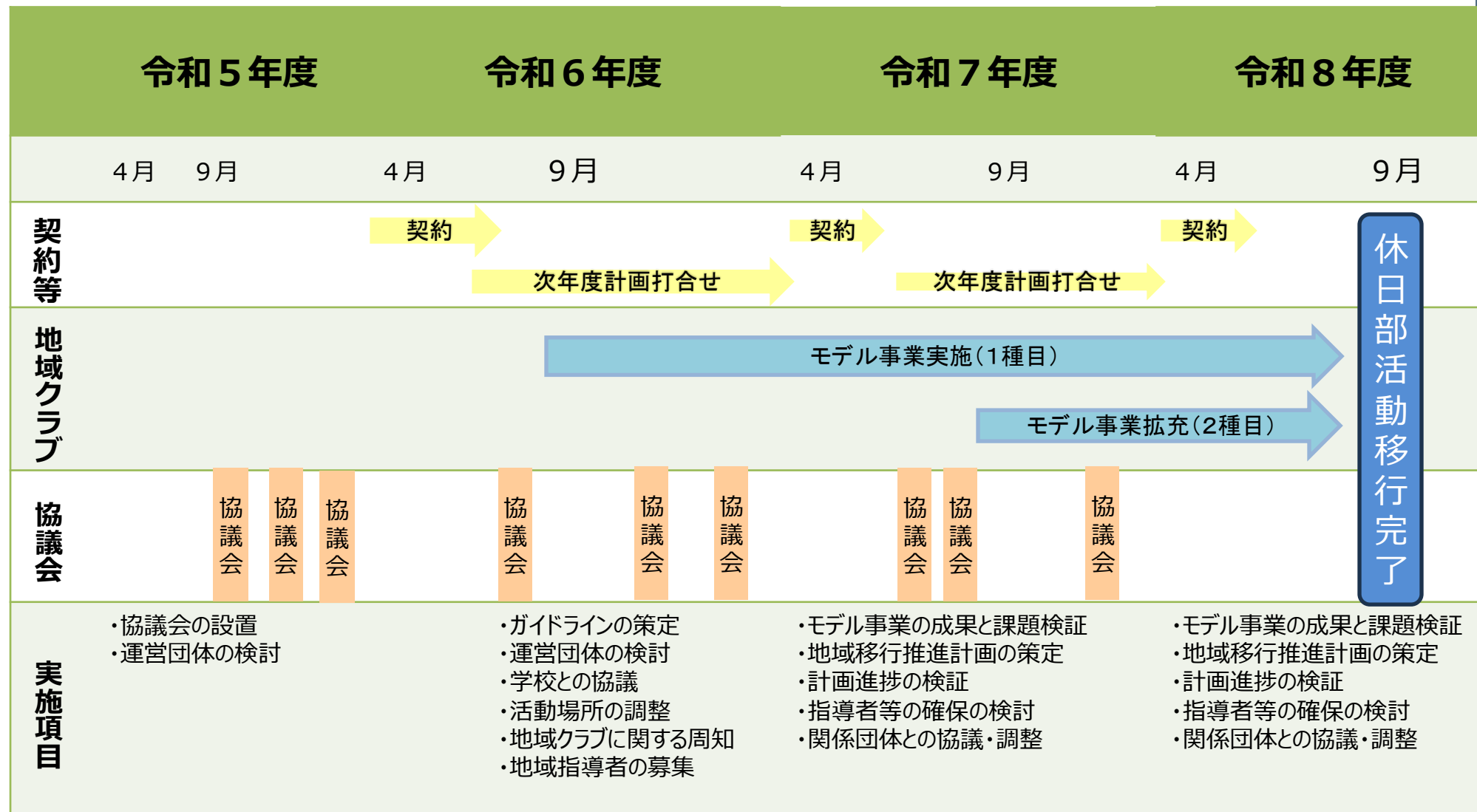
外部指導員のための活動日における鍵の貸し出しが検討事項となった。スポーツ担当課が、社会スポーツ団体に対し学校体育館開放事業を実施していたことから、そちらの鍵を借用できるよう協議して、対応した。

●実施にあたって生じた課題

令和6年度の指導者確保については、野球を対象としたため教職員の志願者が多かったこと、部活動指導員等の活用により支障はなかったが、今後対象種目が増えた場合、指導者の不足が課題として想定される。協力先として考えられるスポーツ協会等の社会スポーツ団体も高齢化等の問題を抱えているため、各団体の状況に応じた調整・協議が必要となってくる。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 八街市

自治体名：千葉県八街市

担当課名：教育部学校教育課

電話番号：043-443-1446

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	74.94 km ²
人口	66,570 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	1,501 人 (R6.5.1現在)
部活動数	60 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

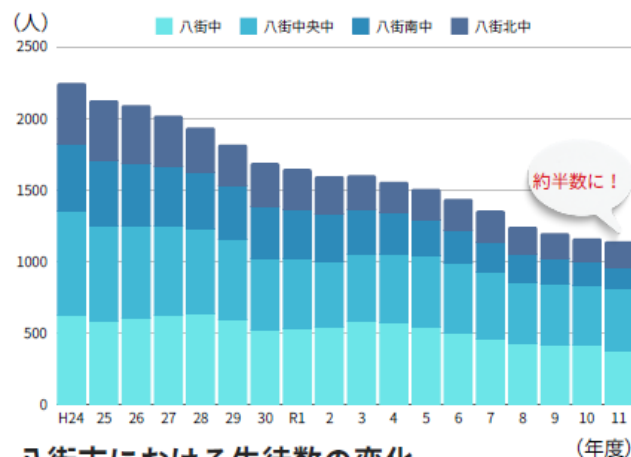
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

市内4つの中学校では、現在20種の運動部及び文化部が学校部活動として取り組んでいる。少子化による生徒数の減少により、チームスポーツが単独校ではチームを編成できない、廃部により希望する部活動ができない、学校規模により部活動の数が異なる等の現状がある。

中学校では市の人口減少に伴い、生徒数も減少傾向にあり、令和6年度の1,501人に対し、令和8年度では1,268人、令和13年度では1,022人にまで減少する見込みである。令和14年度以降は1,000人を切り、今後、10年間で500人以上が減少することになる。

令和6年度の部活動は、運動部が12種目(46部)、文化部が7種目(14部)あり、部活動加入率は約86%となっている

本市においては、指導者の派遣管理、参加生徒の掌握、非常時の連絡体制や生徒指導等の対応などを担う適切な運営団体がないこと、民間に委託した際に発生する費用負担など課題がある。また、運動部の団体競技では、部員不足のため単独でチームを編成することができない、廃部により希望する部活動ができない、学校規模により部活動の数が異なる等の現状がある。

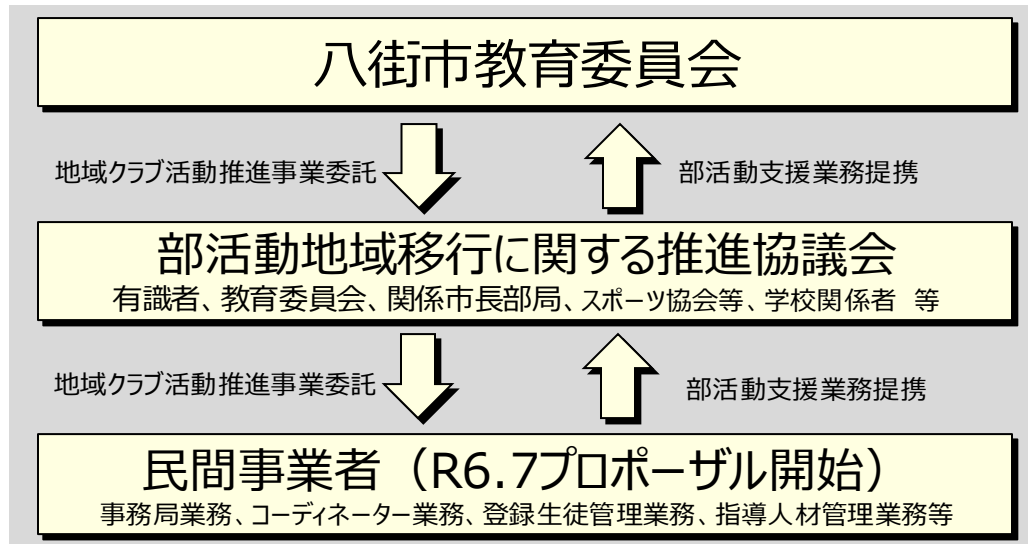


八街市における生徒数の変化

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・休日の活動の在り方の検討及び検討体制の整備
- ・地域のスポーツ団体、学校、保護者等の関係者への周知・理解促進

◎首長部局

- ・休日の学校部活動の地域への移行の進捗状況等を評価・分析
- ・継続して地域のスポーツ環境の充実への取組

年間の事業スケジュール

令和6年6月	第1回推進協議会の開催
令和6年7月	民間委託事業先募集開始 (プロポーザル方式)
令和6年8月	業務委託契約の締結
令和6年9月	指導者説明会の開催
令和6年9月	保護者説明会の開催
令和6年9月	モデル事業の活動開始
令和6年11月	活動進捗検証
令和6年12月	アンケートの実施
令和7年1月	第2回推進協議会の開催
令和7年1月	小学生向け体験会の開催

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（3 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	7 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
野球クラブ	民間スポーツ事業者型	野球	休日月4回	9:00 ～ 12:00	中学生 (1・2年)	9月 ～ 2月	市営中央 グラウンド ほか	4人	7人 (内、兼務0人)	公費負担 参加費無料	中体連： 部活動 (合同チーム)

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 小学生向け体験会の開催（令和7年1月25日）

令和6年9月から開始した野球部の地域移行に向けた実証事業の一環として、野球クラブの取組を小学生や地域の少年野球チームに周知し理解を広げ、野球クラブの活動を持続可能なものにしていくことを目的に開催した。市内で活動する野球の少年団3チームから小学校4～6年生の36名が参加した。



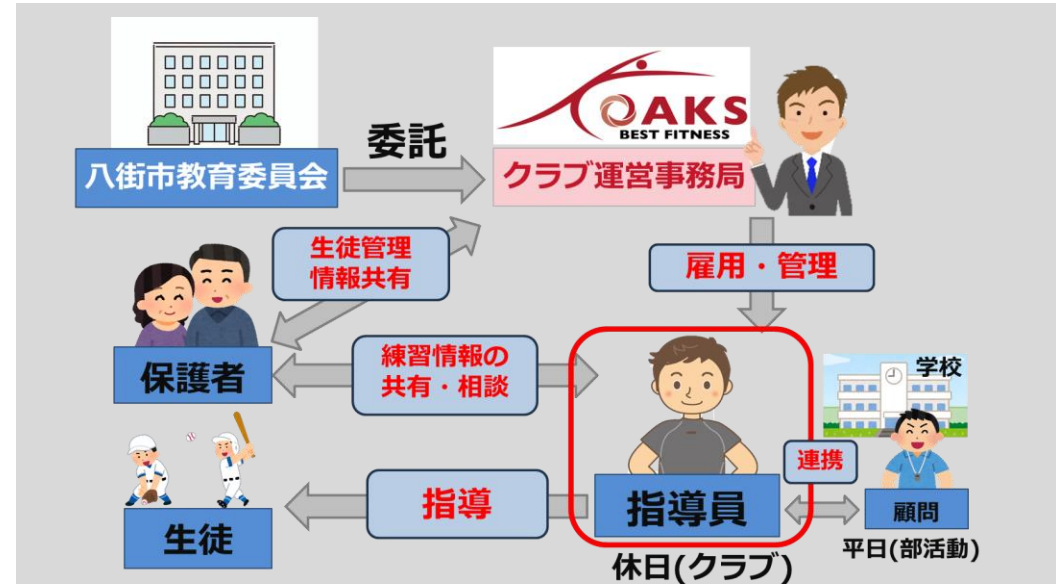
2.実証内容と成果

主な取組

●野球クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	株式会社オークスベストフィットネス
期間と日数	9月1日～2月28日 休日の月4回程度
指導者の主な属性	教員（兼業）及び地域人材
活動場所	八街市営中央グラウンド ほか
主な移動手段	自転車・徒歩・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	公費負担（実証事業期間中）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任者
役割：全体の工程管理・関係者調整・全体予算管理等を行う
- 主任指導員 1名
役割：指導業務の総括、関係者との連絡調整等を行う
- 運営補助者 7名
役割：巡回支援、指導員や生徒管理システムの管理及び運用等を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和6年度に部活動の地域移行を市内で1部活動行う。今後、部活動を地域に移行する際に必要な費用面の整理、教員・指導者・生徒・保護者のそれぞれの立場での成果と課題の洗い出し等についての調査研究を実証的に行い、検証していく。本市では協議会を中心に関係者の合意形成を推進するとともに、コーディネーターの機能を民間企業に委託して取り組む。

取組の成果

○少子化により、単一校だけでは十分な部員数が確保できないという現状に対して、地域クラブとして活動を開始したことで、チームが編成でき、試合の出場機会の確保や練習内容の充実につながった。

○教育委員会が経験豊富な民間事業者に対し、クラブ運営の事務局を委託したことで、安全安心な運営方針の下、活動することができた。

○休日に活動を行った指導員に支給する給与については、運営事業者が一括して支払いを行った。また、指導者の勤怠管理を事業者が連絡ツールアプリを活用して一元管理することにより、休日については学校部活動とは異なる活動としてモデル事業を推進することができた。



推進協議会を年2回開催

有識者、教育委員会、関係市長部局、スポーツ協会等、学校関係者が集まり、協議を行った。

コーディネーターの具体的な動きの実績

○推進協議会に出席し、先行自治体の事例を紹介したり、本市の実情に合わせて助言を行った。

○指導員説明会や保護者説明会を開催し、事業の方向性について説明を行い、関係者の理解促進を図った。

今後の課題と対応方針

○令和7年度に向け、対象とする地域クラブ活動を拡充すること
○連絡ツールアプリの運用コストや費用負担のあり方に関すること
→必要な経費について十分な検討を重ねていく

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者に対する講習会の開催・運営については実証事業の調査研究の事項として市から民間事業者に委託する。

指導者研修の目的と内容

- 1 生徒も指導員も安心安全にスタートを切る準備をする
- 2 生徒の充実したスポーツ活動の基盤を作る
- 3 指導員の指導人生のやりがいを感じられる環境を整える

【基本の受講スタイルはアーカイブ方式】

研修	内容
① 指導者概論	・指導員としての心構え ・指導員としての軸を発見する
② 緊急時対応	・指導員の人生も守るスポーツ指導 ・様々な緊急時対応 AED研修
③ 指導者における注意	・スポーツにおけるハラスメントとは ・多様化する考えにおける指導について
④ 円滑なコミュニケーション	・メンタリストに学ぶ ・生徒を理解し生徒の心を掴む！

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 9月1日から1月31日まで
- ・開催回数： 1人につき4回
- ・参加人数： 6人

人材バンクについて

人材の確保に向けて、専用サイトを公開している。運営事務局が、サイトの管理や運営を担っている。

指導を希望する地域人材等が専用フォームを通じて、登録をした際には、運営事務局が面接等の一連の採用業務を実施した。



- 人材バンクの登録者数 800名（稼働中も含む）
- 人材バンクの年齢構成 20歳～65歳
- スポーツ種目すべて、吹奏楽、演劇
- 資格については必須項目にしていない

クリックすると、八街市専用の「クラブ指導員応募フォーム」にアクセスできる。

取組の成果

- 厳選された研修により、指導員を効率よく配置することができた。
- 今年度の実証事業においては、人材バンクに2名の登録があった。
 - 今後、指導員の配置については、兼業の教員と地域人材のバランスを図り、クラブ運営の核となりうる地域人材の育成を行っていく。
 - 千葉県教委が運営する指導者人材バンク「ちばクラサポ」を併用する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

費用負担の在り方に関する意識調査を行う。活動に対する会費の適切な設定、徴収方法の検討、保護者による負担（受益者負担）について調査・検討を行う。

地域クラブに係る経費

■主なコスト一覧

【運営費】事務局運営費

- 勤怠管理システム稼働設定費用
- 人材バンクシステム管理・運営
- ホームページ管理・運営

【活動費】指導員諸謝金

- 消耗品費
- スポーツ安全保険料（受益者負担）

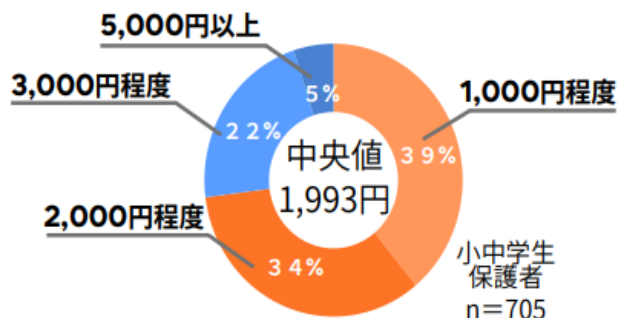
■コストに関する分析

支出の割合については次のとおりとなった。

運営事務局人件費	13%
活動運営費	38%
活動費	49%

保護者による負担（受益者負担額）についての調査結果

地域クラブ活動の「会費」として、月額
 の費用負担の可能な金額（月4回活動）



○小学生5・6年及び中学生1・2年の保護者を対象に、GoogleフォームによるWebアンケートを実施した。小中併せ705件の回答があり、回答の割合は在籍人数に対して、小学校・中学校ともに40%となった。
 ○「地域クラブ活動の『会費』として、月額
 の費用負担の可能な金額（月4回）」について質問したところ、1,000円程度が39%、2,000円程度が34%、3,000円程度が22%、5,000円以上が5%となり、支払い可能な金額の中央値は約2,000円となった。

今後の課題と対応方針

地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要なコストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。
 収支バランスについては運営事務局人件費が25%～30%、活動費50%、活動運営費が20%程度を見込んでいる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

グラウンドや体育館などの学校施設や市営施設の活用や管理方法について検証を行う。部活動地域移行を推進するためには、指導者の確保のほ

か、活動場所となる学校施設や市営施設の「鍵」の管理に教職員が関与しなくても成立する環境や仕組みを構築する必要がある。

取組の成果

○八街市営中央グラウンド（右写真）の利用にあたっては、教育委員会のスポーツ振興課が担当窓口となっている。同グラウンドは八街中学校の平日の部活動における練習場所になっているため、グラウンドの解錠と施錠はこれまでどおり教職員の協力を得られたことにより、大きなトラブルなく活動することができた。

○中学校のグラウンドを使用する際には、同校の教職員が立ち会うことができれば、活動自体は問題なく実施できることがわかった。



今後の課題と対応方針

地域クラブ活動の練習場所については、学校施設をできるだけ使用せず、市営施設等を活用することで、教職員の負担軽減を図ることはできる。一方で、将来的に、文字通りの地域移行となり、教職員の関与が減った場

合、学校のグラウンドや体育館、武道場の調整や施錠の管理をどの部署がどのように運用するかは検討が必要である。また、校舎内の活動についてはより一層の事前協議が求められることになる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

休日だけでなく平日を含めた移行を見据え、課題の抽出や課題解決策の検討を行う。

取組の成果

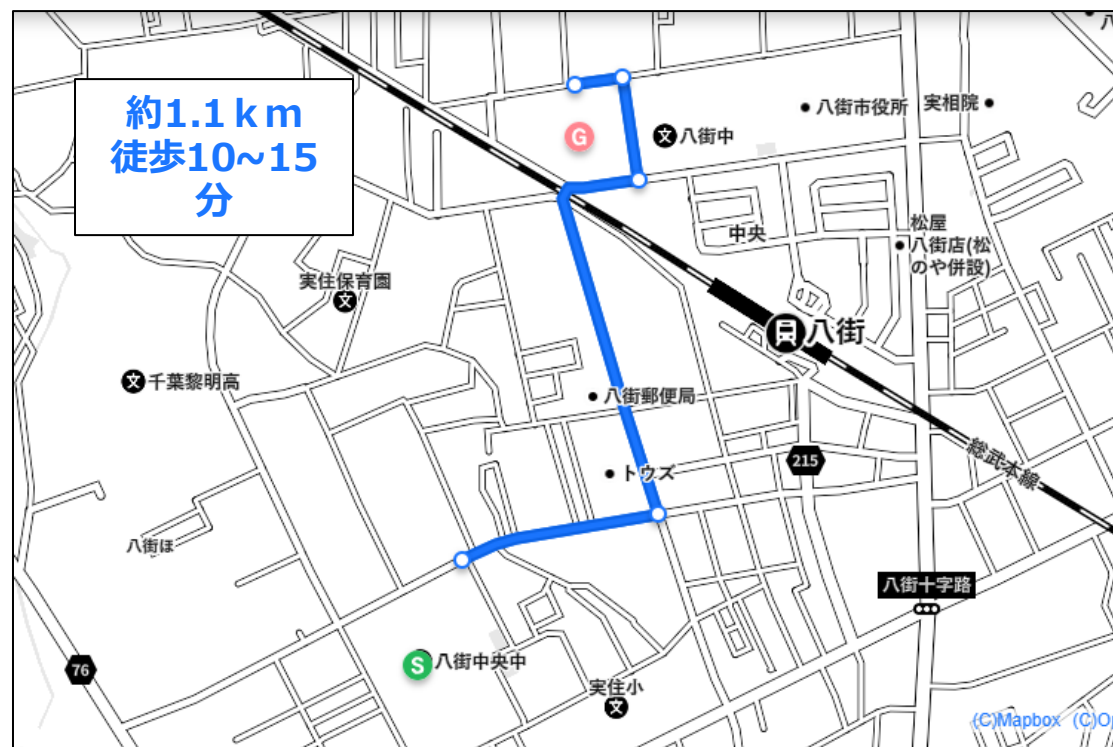
平日の合同部活動に関する検討

八街中学校と八街中央中は学区が隣接しており、両校の距離は約1.1kmである。また、市営中央グラウンドは八街中学校のすぐそばにある。平日の放課後に、八街中央中の生徒が徒歩等で移動することで合同練習が可能ではないかという意見が上がった。

今後の課題と対応方針

複数校が「平日」に合同で活動する場合には、次の条件を整理していく必要がある。

○両校の校長の承認 ○教育課程のすり合わせ（下校時刻）
○双方の顧問の立ち会い ○移動中や下校時の交通事故防止（学区外から下校となる）



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度、中学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けた実証事業として、9月から、公募型プロポーザルで選定した民間の事業者により、休日の軟式野球部の運営を開始した。現在、3つの中学校から16名の生徒が加入しており、休日には市内外の野球場等で合同チームとして活動し、大会にも参加している。また、各学校の野球部顧問は兼業許可を受けて、民間事業者の職員として、これまでと同様に指導に当たっている。

運営事業者は、指導員に対して安全講習を行うとともに、練習後の日報の確認、巡回訪問等により、指導状況を把握する体制を整えています。また、生徒及び指導員は「スポーツ安全保険」に、運営事業者は「賠償責任保険」に加入し、けがや万が一の事故に備えている。

今後は、各校の部活動の状況を把握し、次年度に向けて他の運動部や文化部を対象とする実証事業の導入について検討を進めていく。

●成果の評価

- 令和7年度以降、地域展開を推進する上で、検証する必要があるポイントについて
- (1) 現在、部活動に参加している生徒の全員が地域クラブに参加できること
 - (2) ニーズの多様性や幅広くチャレンジできる場を創出できていること
 - (3) 活動において家庭への過度な負担を軽減できていること
 - (4) 地域クラブの指導員の質と量を担保していくこと
 - (5) 地域展開を通じて、本地域のスポーツ活動を活性化する仕組みになっていること

●今後に向けて

○理解促進

令和7年度実証事業にて地域展開する対象種目を関係者にすみやかに周知する

○教職員の業務負担軽減

地域人材の確保に向けて専用HPや県人材バンクを積極的に活用する

○地域クラブの指導員の品質保証

専門性をもつ人材の確保と研修による育成制度の確立

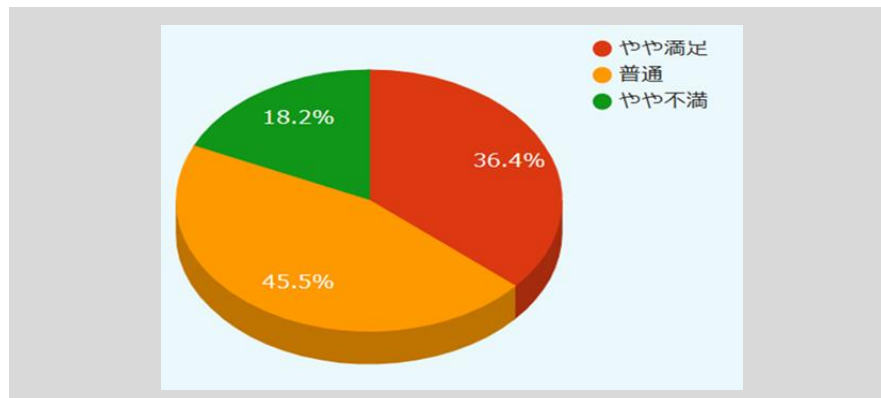
○持続可能なクラブ運営に必要な資金面についての合意形成

受益者負担の確立、地域や関係団体と連携した運営協会の設立

アンケート結果・保護者の声

●アンケート結果（野球クラブ・保護者対象）

Q.現在の休日地域クラブに参加されている満足度について教えてください。



Q.お子様を休日の地域クラブ活動に参加させる上でどのようなことを重視していますか？

順位 回答（人数）

- 1 体力・運動能力の向上（7名）
- 1 子どもの人間的、内面的な成長（7名）
- 3 技術レベル・体力に合わせた練習ができる（5名）
- 3 専門的な技術指導が受けられる（5名）
- 3 学校外の人との交流（5名）
- 6 子どもの意思（4名）
- 7 安全に活動できる環境（3名）
- 8 友達や知り合いの参加状況

●保護者の声

「やや満足」 36%

- ・子どもが楽しく行っている。
- ・生徒をしっかり見てくださり、熱心に指導してくれている
- ・子どもが参加したがって、親も応援したくなる。
- ・技術的にもタメになると子どもが言っている

「普通」 46%

- ・指導者が学校の先生のため、地域移行を感じません。
- ・特に何も無いが、これからの取組に期待をします。
- ・まだ始まったばかりでよくわからない。
- ・子どもが参加したがっているため。
- ・部活と地域移行で変化を感じることはまだないが、これからのいい方向へ進んでくれるといいと感じる

「やや不満」 18%

- ・部活の延長であり変化がわからない
- ・今までと変わらないため。しかし今後への期待値は高い。

アンケート結果（保護者）

●アンケート結果（1/3）

部活動に入る目的

「部活動に所属する目的は何ですか？」

n=705

75%

友達と楽しく
活動するため

69%

体力や技術を向上
させるため

63%

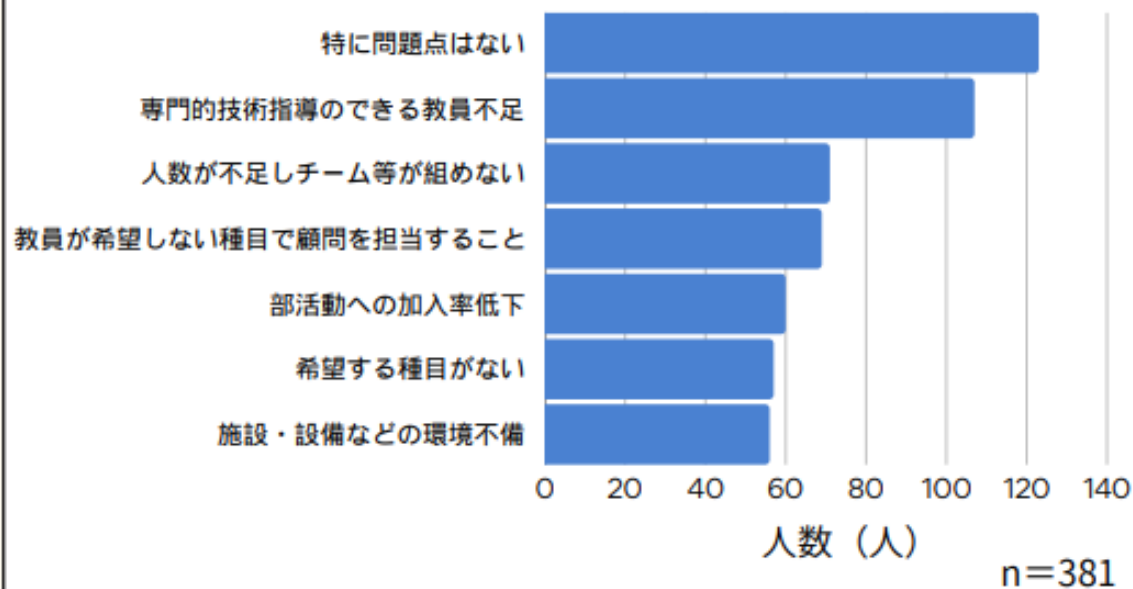
チームワーク・協調性・
共感を味わいたいため

22%

大会やコンクール等で
良い成績を収めるため

現状の部活動の問題点【中学生保護者】

「現状の部活動で問題点と感ずることは何ですか？」

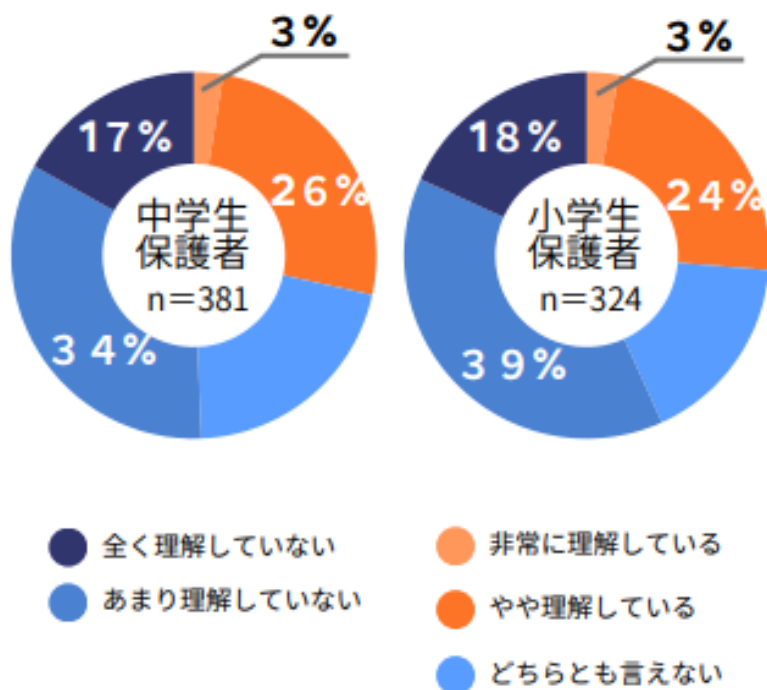


アンケート結果（保護者）

●アンケート結果（2/3）

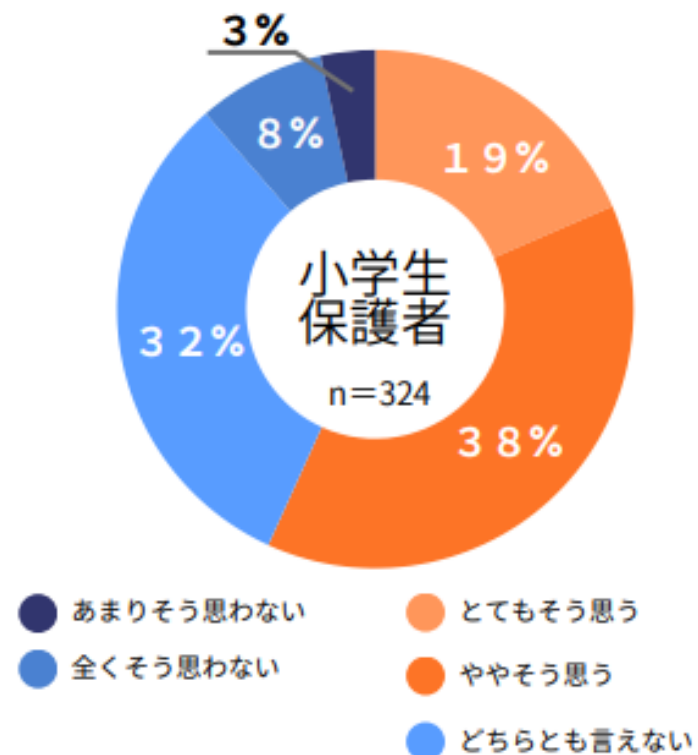
部活動改革に関する認知度

国が推進する部活動改革の目指す姿を知っていますか。



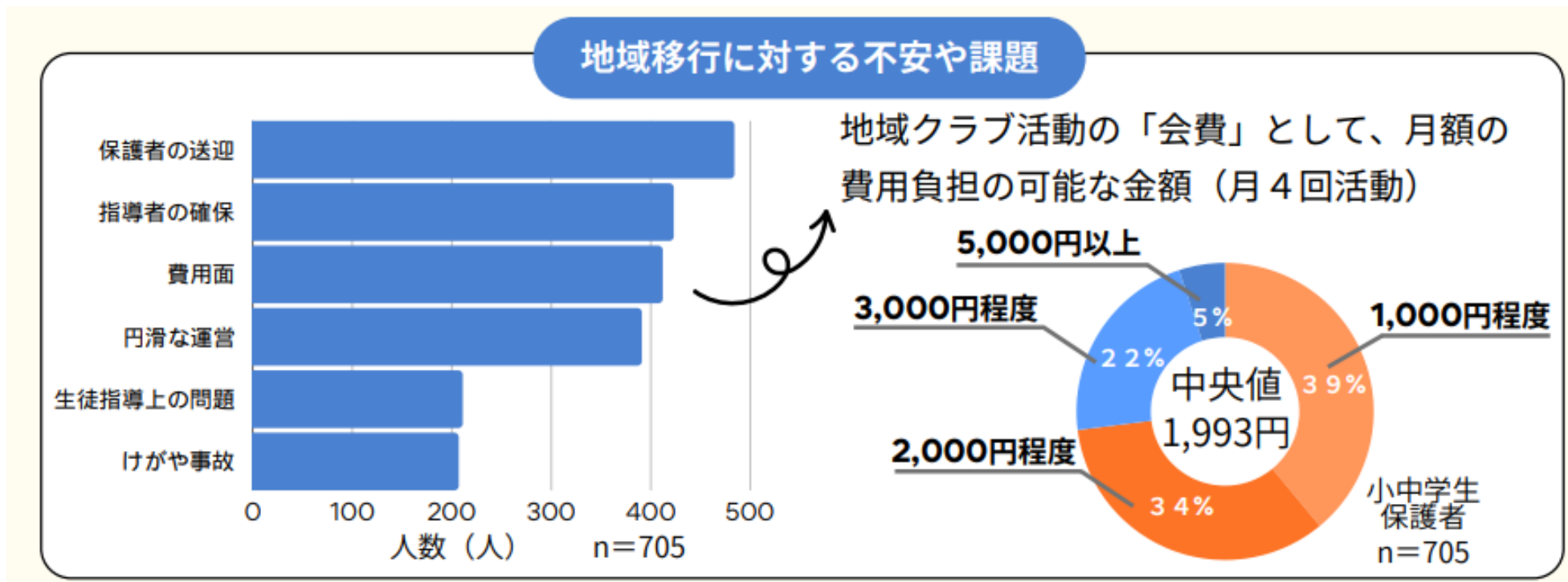
市内合同での活動の可能性

少子化の影響で、他の学校の生徒たちと一緒に活動する必要があると思いますか？



アンケート結果（保護者）

●アンケート結果（3/3）



本調査は、GoogleフォームによるWebアンケートにより、令和6年6月7日（金）から6月21日（金）までの集計結果に基づき作成。小学生5・6年及び中学生1・2年の保護者を対象とし、各校のマチコメールを通じて周知を行った。なお、小中併せ705件の回答があり、回答の割合は在籍人数に対して、小学校・中学校ともに40%となっている。

本アンケートは、地域移行推進協議会の助言を受け、八街市教育委員会・学校教育課が事務局となり実施した。

広報資料・アンケート結果（参考資料）



先行モデルとなる実証事業・実施期間
令和6年9月から令和7年3月まで
 ※9月に参加希望保護者を対象に説明会を実施しました。

練習日・時間 **参加対象**
 月4回程度(土・日・祝) 市内中学生 現1・2年
 1回あたり半日程度 八街中・八街中央中・八街南中・八街北中

練習場所 **指導者**
 中央グラウンドのほか 地域人材 および
 中学校グラウンドにて 兼業による教員

保護者説明会
 八街市の野球部保護者向けに説明会を実施しました。(ZOOMライブ配信)
https://youtu.be/_T0H9BU5SNN

【入会希望・指導員登録などはこちら】
 野球クラブ運営事務局 (0926) スタッフ2名
 ☎ 090-2639-2305 043-443-1446
<https://chiikiclub.jp/contact/>

【生徒への参加啓発チラシ】

八街市のこれからの“プロカブ”を伝える 部活動地域移行だより VOL.01

発行：八街市立中学校の部活動地域移行推進協議会
 事務局：八街市教育委員会

中学校部活動のあり方が変わります

部活動の地域移行は、学校が中心となり行われている休日の部活動を、地域人材等の協力を得て、地域のスポーツ・文化芸術活動として移行しようとするものです。八街市教育委員会では、本市の地域性や特性を生かすことができるような部活動のあり方について検討しています。

今年3月には、部活動地域移行推進協議会を開催し、想定される課題等を確認するとともに、広く保護者や児童生徒の意見を聞く必要があるとの提言を受け、この提言、教職員及び保護者の皆さまに対し、アンケート調査を実施することとしました。

今年度のモデル事業とは？

近年、合同チームを編成しなければならない状況にある部活動(軟式野球部・1種目)を対象として、部活動地域移行の実証事業を行う予定です。実証事業では、休日における指導者の派遣、運営事務局の設置や他の関係団体との連絡・調整を図るコーディネーターの配置等の取組を進めます。今後、実証事業の成果や課題等を検証し、他の運動部や文化部への導入に当たっての課題等を精査し、本市に適した形で地域移行に取り組んでいきます。

少子化による生徒数減が明らかに

八街市における生徒数の変化
 生徒数はグラフに示されているとおり、年々減少しています。部活動においては、チームスポーツの人数が集まらないなど、従来の学校単位の部活動が今後さらに難しくなることが予想されます。

アンケート調査への協力ありがとうございます

中学校1・2年生及び小学校5・6年生にお子様と保護者及び教職員を対象にアンケート調査を実施しました。数多くの貴重な意見を頂戴しております。集計結果については、今後、お知らせする予定です。

【問合せ】八街市教育委員会教育部学校教育課 TEL 043-443-1446

【保護者・地域等への啓発チラシ】

【アンケート結果】

令和6年度 部活動地域移行に関する保護者アンケートの結果について

このたびは、アンケート調査にご協力いただきましたありがとうございます。皆さまからいただいた貴重なご意見は今後の教育委員会の施策に役立ててまいります。

部活動に入る目的

「部活動に入る目的は何ですか？」
 n=705

- 75% 友達と楽しく遊べるため
- 69% 体力や技術を向上させるため
- 63% 将来の進路(職業)や大学進学に向けての準備をするため
- 22% 将来の進路(職業)や大学進学に向けての準備をするため

現状の部活動の問題点【中学生保護者】

「現状の部活動の問題点と感じることは何ですか？」
 n=311

- 専門的指導が受けられない
- 入った部活動が合わない
- 練習時間が長い
- レギュラーになれない
- 指導が厳しい

現状の部活動の満足度【中学生保護者】

満足している

- 68% 充実している
- 31% 入った部活動が合わない
- 23% 練習時間が長い
- 18% 指導が厳しい
- 14% 疲れる
- 11% 練習時間が長い
- 7% レギュラーになれない
- 4% 指導が厳しい

部活動改革に関する認知度

国が推進する部活動改革の目指す姿を知っていますか？

- 17% 全く知らない
- 34% ほとんど知らない
- 26% 多少知っている
- 3% かなり知っている
- 3% 全く知らない
- 3% ほとんど知らない
- 3% 多少知っている
- 3% かなり知っている

市内各団での活動の可能性

少子化の影響で、他の学校の生徒たちと一緒に活動する必要があると思いますか？

- 3% 必要
- 19% 必要
- 32% 必要
- 38% 必要
- 1% 必要
- 1% 必要
- 1% 必要
- 1% 必要

地域クラブ活動へのニーズ【小学生保護者】

休日の部活動が学校の活動ではなく、地域で行われる「クラブ活動」となった場合、お子様を参加させたいですか。n=324

- 92% 参加させたい
- 86% 参加させたい
- 78% 参加させたい
- 71% 参加させたい

地域移行に対する不安や課題

地域クラブ活動の「会費」として、月額の費用負担の可能な金額(月4回活動)

- 5,000円以上
- 3,000円程度
- 2,000円程度
- 1,993円
- 1,000円程度

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【一人一人に丁寧な指導を行う】



【在籍中学校が異なっても互いを尊重】



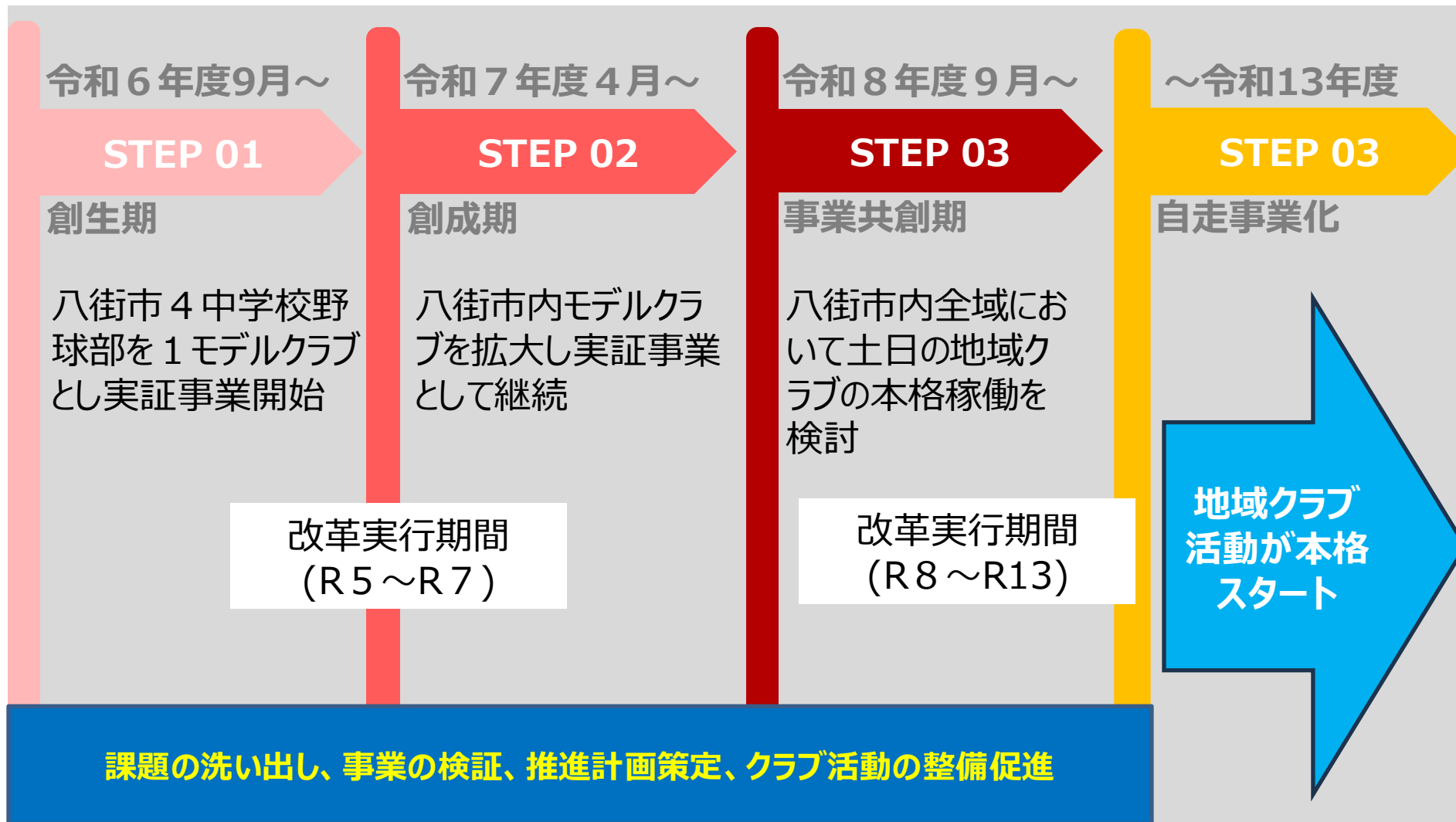
【近隣（市外）中学校との練習試合に地域クラブとして参加】



【オール八街で試合に出場】

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

千葉県 印西市

自治体名：千葉県印西市

担当課名：印西市教育委員会指導課

電話番号：0476-33-4705

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	123.79km ²
人口	111,731 人
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	3,190 人
部活動数	120 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	印西市部活動地域移行推進協議会 設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定検討作成中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

－印西市の部活動における実態－

●大規模校と小規模校の混在

R 6年度 大規模校 804 人

小規模校 30 人

R 12年度 大規模校 1,584 人

(推計) 小規模校 27 人

●部員数の格差

最多：70 人 最小：2 人

●部活動設置数の格差

●部活動設置の性別的な差

●学校施設のキャパシティ

●教職員向けアンケート

Q 休日の指導を希望するか？

希望する：3 割 希望しない：7 割

●指導者向けアンケート

Q 地域移行の受け皿になれますか？

スポーツ協会・スポーツ少年団ともに

可能な限り協力するが運営は厳しい

●生徒・保護者向けアンケート

Q 地域移行についてどう考えますか？

全体的に否定的な意見が多い

詳細についてはイメージがついていない

児童生徒実態調査アンケート (R5. 11月実施)

Q自由記述 (疑問・期待・不安)

- ・地域クラブとは何ですか？大会の参加はなるのですか？
- ・自分の学校の部活動にない種目に挑戦できる
- ・顧問より専門的な技術の指導を受けられる
- ・他の学校の生徒と交流し切磋琢磨できる
- ・入会費や活動場所への移動
- ・部活動の受け継いできた伝統が崩れる

保護者実態調査アンケート (R5. 11月実施)

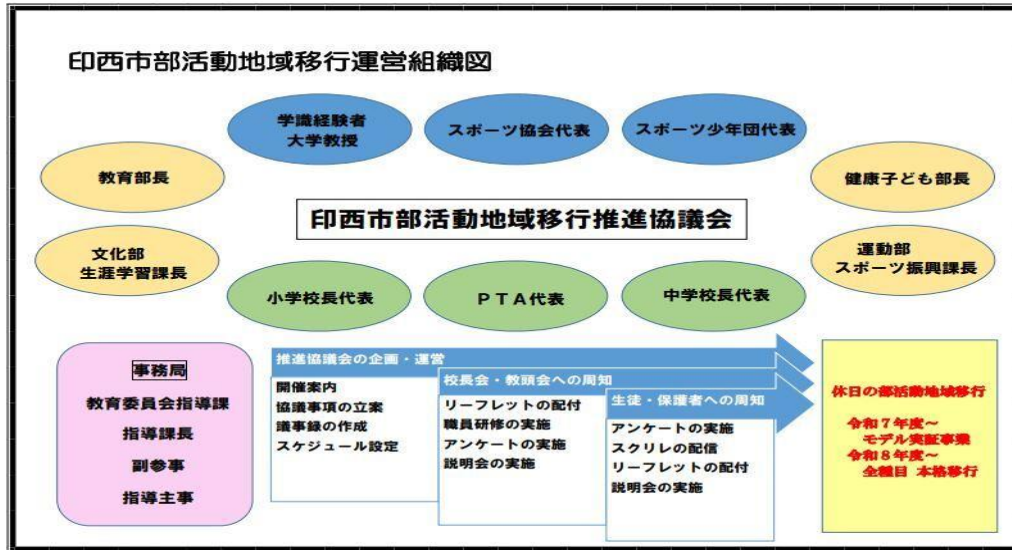
Q自由記述 (疑問・期待・不安)

- ・正直、子ども(本人)のやる気次第
- ・先生方の負担軽減のためにも、地域の力で無理のないクラブ活動が必要
- ・通知表や内申書での地域クラブの扱い
- ・指導者の質(体罰・セクハラ)と人材確保
- ・部活動と地域クラブと既存のクラブの違い
- ・活動場所への送迎や金銭的な負担

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・印西市部活動地域移行推進協議会の企画・運営
- ・学校施設や生徒に係ること
- ・部活動地域移行運営業務委託の予算の確保・業者選定・契約

◎スポーツ振興課・生涯学習課

- ・指導者確保
- ・スポーツ協会・スポーツ少年団との調整
- ・公共施設・公民館の出前講座との連携

年間の事業スケジュール

- 令和6年4月9日 **地域移行リーフレット④配付**
- 令和6年5月9日 **地域移行検討会①**
- 令和6年5月20日 **第1回推進協議会**
- 令和6年6月26日 **地域移行検討会②**
- 令和6年7月4日 **第2回推進協議会**
- 令和6年8月1日 **夏季研修講座（教職員）**
- 令和6年10月2日 **地域移行検討会③**
- 令和6年10月9日 **第3回推進協議会**
- 令和6年11月2日 **地域移行リーフレット⑤配付**
- 令和6年11月21日 **プロポーザル審査委員会**
- 令和6年11月27日 **公募型プロポーザルの公告**
- 令和6年12月20日 **プロポーザル参加申請**
- 令和7年1月29日 **プレゼンテーション審査**
- 令和7年2月中旬 **契約締結**
- ……………今後の予定……………
- 令和7年3月4日 **第4回推進協議会**
- 令和7年3月中旬 **地域移行リーフレット⑥配付**
- 令和7年4月13日 **生徒・保護者向け説明会**

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言の体制や運営団体・実施主体の整備

取組の成果

部活動地域移行推進協議会の中で地域移行の実施主体や運営団体の可能性についてアンケート結果をもとに協議して現状の共有をした。

①スポーツ協会の可能性

スポーツ協会に所属して活動している市民は、指導者としてよりも競技者として生涯スポーツで活動しているケースが多い。

②スポーツ少年団の可能性

数団体の指導者が中学生への指導について関心を持っている。しかし、現状として小学生を教えることで精一杯であると回答した。

③総合型スポーツクラブの可能性

バドミントンなど受け入れ可能だが、現段階でも中学生の数が多く募集を停止している状態である。

スポーツ少年団アンケート（市内21団体）

Q 1 あなたの団では中学生の指導ができますか？

可 能：5 団体（野球・サッカー・空手・ラグビー）

条件次第：6 団体（野球・サッカー・バレーボール・ラグビー）

不 可：7 団体（野球・バスケットボール・柔道）

※すでに中学校部活動の外部コーチとして連携しているケースはあるが、活動場所や用具の確保が難しい。中学生がメインではなく小学生と一緒に活動する程度なら連携することも可能。指導者確保が困難で小学生だけでも手一杯である。

Q 2 部活動地域移行による懸念や課題は？

事故時の対応（11 団体）

教師や学校の理解（10 団体）

経費・活動場所（9 団体）

今後の課題と対応方針

部活動地域移行の実施主体や運営団体の可能性について、各団体の代表者から現状を報告していただき協議した。現状とすると、部活動地域移行について可能な限り協力できるように図りたいとの回答を得たが、中心となって中学生の部活動を請け負うことは難しいとのことだった。関係機関と連携を図り、学校と連絡を取りながら“誰が”この部活動地域移行を運営

していくということが、最大の課題として協議会のテーマになった。他の自治体の担当者とも情報交換をしながら様々な可能性を模索したが、将来的には、部活動も“習い事”として学校活動から離れることを想定し、教育委員会ではなく運営していくことを考慮した。協議を繰り返す中で、民間業者への業務委託が最善であろうと結論が出た。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

印西市の部活動地域移行では、最終的に70クラブ程度の地域クラブの設置を目指す。各クラブ2名の指導者を配置するとすると、指導者の確保について非常に困難な状況が考えられる。地域と連携して地域の指導者の発掘とともに兼職兼業の教職員の雇用も考える。

スポーツ協会

スポーツ協会では、中学校に設置している部活動の種目については、ほぼ専門部が設置されている。しかし競技者志向の方が所属しているため指導者としての人材確保は難しい状態である。

スポーツ少年団

木刈FCの指導者が木刈中サッカー部の外部コーチとして連携している。その他、野球やラグビーなどで中学生の受け入れが可能なチームもある。中学校の全種目の受け入れは非常に難しい。

総合型スポーツクラブ

総合型スポーツクラブの牧の原SCでは、中学生の受け皿として卓球とバドミントンの種目を設置しているが、参加者多数により募集を停止している。グラウンドゴルフやユニカールなどの種目もある。

兼職兼業の教職員

部活動の指導に意欲がある教職員を積極的に指導者として雇用したい。部活動指導を負担に感じている教職員が多数いる一方で、部活動指導に人生を捧げてきている教職員もいる。

取組の成果

教職員向けアンケートを実施した。

Q 休日の部活動指導を希望しますか？

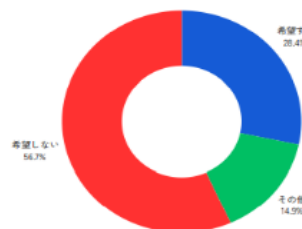
希望する：28.4% 希望しない：56.7%

自由記述欄では、

8割近い教職員が部活動地域移行について賛成の立場で回答してあった。教員の負担軽減や専門的な指導への期待などの一方で、生徒指導上の対応、教育効果や大会の役員として駆り出されるのではないかと不安が挙がった。

教職員実態調査アンケート（R4.10月実施）

②休日の指導の希望について



教職員実態調査アンケート（R4.10月実施）

Q部活動地域移行について（理由）

【賛成】

- ・教員の負担が軽減される
- ・地域の人材により専門的な指導が可能
- ・多様な経験をさせることができる

【反対】

- ・生徒指導上の問題への対処
- ・部活動における教育効果

毎月の校長会で進捗を周知 令和6年8月1日 市教育センター夏季研修講座で説明会を実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

指導者確保という観点から、市スポーツ協会や市スポーツ少年団との連携は必要不可欠だが、印西市に拠点を置く順天堂大学との連携も視野に入れ、順天堂大学の各種目に専門的に取り組んでいる学生と部活動地域移行への関りについて考える。

取組の成果

順天堂大学の教授を学識経験を有する者として印西市部活動地域移行推進協議会の委員として招聘している。

順天堂大学内でも、部活動地域移行については非常に关心的问题として捉えているとのことと報告を受けた。

- ・既に、中学生の指導に関わっている学生がいること
- ・教師（プロ）が指導していた部活動指導を、学生（アマ）が指導することにおける中学生への影響
- ・教職を目指す学生にとってはありがたい指導機会
- ・最寄り駅の関係で市外の近隣市町が生活圈



順天堂大学との連携実績

- ・印西市小学校駅伝大会における伴走
小学生の駅伝大会に、箱根駅伝に出場する順天堂大学駅伝部の選手を招き、小学生の駅伝に伴走してもらい、アスリートと一緒に走る機会を設けている。

順天堂大学

順天堂大学さくらキャンパス
所在地：印西市平賀学園台1-1
最寄駅：京成酒々井駅
印西市を走る成田線・北総線に隣接しないため、印西市へは原付バイクでの移動になる。

今後の課題と対応方針

順天堂大学としては、交通手段が原付バイクだけになってしまうことに不安感があるとの報告を受けた。印西市の一部の中学校区でしか指導者としての配置ができない。また、指導者ではなく、指導サポートのような立場での関わりを持ってもらえることを期待する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組の成果

印西市部活動の課題から

- 大規模校と小規模校の混在
学校部活動を置き換えた地域クラブの実施では、教職員の働き方改革につながっても、子どもたちの持続可能なスポーツ・文化芸術活動にはつながらない。
- 小規模校では部活動を維持することが難しい。
部員が少なく練習が成り立たない。大会に参加できない。
部活動を理由に学区外就学を申請し、ますます小規模校化が進む。
- 大規模校では過剰な部員数と活動場所の問題がある。
1つの部活動で80人近い部員が所属する。
部活動を新設しようにも活動できるスペースがない。



今後の課題と対応方針

学校部活動の置き換え型ではない地域クラブの設置を目指す。市内中学生に公平にスポーツ・文化芸術活動の機会を与えるために、種目に取り組む生徒数を把握し、市内で適正クラブ数の地域クラブを設置し持続可能な地域クラブの運営を目指す。部員の多い陸上競技は9クラブ、部員の少ない柔道は1クラブのように部活動実態調査から適正クラブ数を設置。

しかし、学校部活動ではない形で地域クラブを設置すると、様々な面で課題がある。保護者の送迎の問題、大会参加の要件、活動拠点の設置など、学校の取組ではないことから、今までの部活動の取組ではない形での部活動地域移行を模索していかなければならない。小中体連や各競技専門部と密に打ち合わせを行い子どもたちに不利益がないようにする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

印西市内の中学生に公平かつ平等にスポーツ・文化芸術活動に取り組む機会を設けることを前提に置いて準備を進めている。学校部活動ごとに置き換え型の地域クラブを設立すると、教職員の働き方改革としてのメリットを得られる一方で、学校規模によって、生徒たちが地域クラブに参加できる機会は現状維持になり、大きなメリットが生じないことがわかった。印西市内の中学生が公平にすべての種目に取り組む環境を整えるよう地域クラブの設立の準備をしていくよう協議会で結論を出した。現在、休日に活動している種目の受け皿を設定し、活動を継続する環境を整える。

部活動実態調査から印西市の地域クラブの設定へ

印西市の部活動における実態
【令和6年度部活動実態調査】

部活動実態調査（種目別・男女別）

部活動実態調査（種目別・男女別）

【令和6年度部活動実態調査】

部活動実態調査（学校別部員数一覧）

令和6年度印西市部活動実態調査により、部員数が競技人数に満たさず、合同チームを形成する部活動も複数存在した。特に野球部については市内8校に設置されているが、単独で大会に参加している学校が3校である。その他は、大会ごとに合同チームを組織し出場していることからモデル実証の種目として選定した。さらに、モデルとして野球と対称的な種目の選定が必要と捉え、対象者が多い室内種目の女子種目ということから女子バレーボールを選定した。千葉県スケジュール（目標）では、R6年度各中学校1部活動以上であるが、部活動の置き換え型ではない地域クラブの設定を目指すので、印西市の独自のスケジュールで令和7年度から市内全中学校の2種目の休日の部活動を停止し地域クラブ活動を開始する準備（運營業務委託等）を整えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組事項

報道では“部活動地域移行”が話題に挙がっているが、教職員や児童生徒、保護者向けのアンケートではなかなか理解が進んでいない。スポーツ庁・文化庁の施策、千葉県の方針とともに、印西市の部活動地域移行の方向性を丁寧に周知し理解を促す必要がある。行政内や協議会で決まったことをどのように周知していくのかを検討し、学校向けに部活動地域移行リーフレットの発行することになった。教室掲示だけでなく一人一台端末での共有を依頼している。保護者向けには、お便り配信アプリを使い教育委員会から保護者に直接配信している。

生徒・保護者・教職員への周知



市内の教職員向けの周知として、令和6年8月1日に実施した市教育センター夏季研修講座の時間で、部活動地域移行の進捗状況と意見交換会を実施した。小中学校の教諭をはじめ管理職や事務職員の参加もあり、様々な立場から部活動地域移行についての意見が出された。その意見をもとに新たな検討事項も見えた。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担等の支援 / キ：学校施設の活用

取組事項（カ）

協議会では、受益者負担と困窮家庭への経済的な支援が話題に挙がっている。今まで負担なく取り組むことができていた部活動から地域移行すると費用負担が発生することを家庭に理解してもらわないといけない。

取組の成果（カ）

受益者負担の想定として、収支バランスの構造を想定して暫定的に決定した。各クラブ指導者2人を配置し、練習の指導及び大会役員等の運営の要する時間分の報酬を計上した。地域クラブ登録生徒数での支払いを想定すると、年会費5000円、月会費3000円が持続可能な取組として試算された。困窮世帯への支援については対応策は検討中である。例えば、企業版ふるさと納税や企業の寄付等で受益者負担や市費の負担を軽減できないか検証していく。将来的に、部活動ではなく、習い事としてのクラブ活動という側面を強くし、受益者負担については保護者への理解を求めていく。

取組事項（キ）

地域クラブの活動場所について、市の体育施設や公民館等も視野に入れたが、市民開放や他の団体との調整を考えると中学生の地域クラブが優先的に市の施設を使用することは難しい。

取組の成果（キ）

社会体育施設開放事業を主管しているスポーツ振興課と連携を図りながら、部活動地域移行に必要な活動場所については、部活動の実施がなくなれば学校施設を社会体育開放よりも優先的に使用できる枠組みが必要である。学校施設の鍵や備品の管理の方法や用具の借用など今後細かく決めていかないといけないことが多い。また、学校部活動置き換え型の地域クラブではない場合、どの学校施設を使用して地域クラブを設定すべきか準備していかなければならない。指導者が兼職兼業の教員ではない場合の学校施設管理のマニュアルなどの整備も必要になってくる。

今後の課題と対応方針

印西市の部活動地域移行の方針が定まり、さまざまな課題を洗い出し、準備を進めているところであるが、まだまだ新たな課題に直面することが多い。関係各所と情報共有をしながら進めているが、なかなか前に進まない部分もあり、丁寧に情報共有しながら進めていかなければならない。

印西市の部活動地域移行のスケジュール

令和7年度
モデル実証

- 野球4クラブ 女子バレーボール6クラブ
- 地域クラブ運営の検証

令和8年度
本格モデル

- 全12種目約70クラブ（休日の部活動停止）
- 受益者負担徴収・謝金の支払いの検証

令和9年度以降
本格実施

- 印西市部活動地域移行本格実施
- 地域クラブ運営の自走に向けて